
市島謙吉（春城）年譜（稿）

春城日誌研究会

1860（万延元）年～1944（昭和19）年。明治、大正、昭和期の著述者、学校経営者。新潟県生れ。号を春城。東京大学中退。又、明治期の新聞人、新潟県選出の衆議院議員。

これが市島謙吉の人名辞書に記されている一般的なものである。著述者というのは、彼が後半生に10数点の随筆集を刊行したことを指しており、学校経営者とは、大隈重信の創立した東京専門学校（後の早稲田大学）の理事、図書館長としての活躍を示すものだ。

新聞人というのは、「高田新聞」、「読売新聞」、「新潟新聞」で経営および主筆を務めたことであり、衆議院議員には新潟県東蒲原、北蒲原、岩船郡から立候補し1894（明治27）年の第4回総選挙で初当選、第5回、6回と連続当選し政治家として国政に関ったことをいう。

我々は市島のこうした足跡をたどるために彼の残した膨大な記録を「読む」ことを始めたのである。「春城日誌」1902（明治35）年分を「早稲田大学図書館紀要」に掲載したのが1986（昭和61）年である。

以来、20年を越す春城日誌を読む会「春城日誌研究会」は例会を重ねて現在に至っている。

市島に関しての公刊された研究は、必ずしも多いといえない。彼が図書館長、理事として経営に携わった早稲田大学が市島の生誕100年（1960年）を記念する事業の一環として編纂刊行された『市島春城先生生誕百年記念祭のしおり』（記念展概要・春城略年譜・著作目録）と『春城八十年の覚書』（1941年市島の自筆の翻刻と解題）がその後の市島研究に大きく影響を与

えている。

この二つの刊行物は、当時の早稲田大学図書館の力を結集して編まれたものであった。その後の市島研究がこの資料を引用し記述されていることに留まっているのを、市島の日誌とその周辺の記録資料を見ている我々にとり気付くことが多々あった。

私は、1989（平成1）年早稲田大学教務部編集刊行の「早稲田フォーラム」に「春城・市島謙吉—その生涯と大隈重信—」として小論を載せてもらった。この時も、先の刊行物に依拠するところが多かったのは言うまでもない。その冒頭に、私は次のように記した。

春城日誌研究会は、（中略）日誌を中心として市島の周辺資料の会を続けていくことを申し合わせている。そして、出来うれば“巨大な森”マルチ人間としての市島春城の生涯と業績を纏め「春城伝」として世に送ることを念願している。

そして結語に、こう述べている。

文人市島春城の名を残す仕事はこの時期（大正半ばから没年まで）に集中している。それらの著述の材料は、昔から書き綴っている日誌、記録、抄録などの膨大な自筆資料である。

多年にわたり活躍した市島の生涯の真骨頂は、あるいはこの後半生にあると考えられよう。しかし、これをたどるにはなお時間が必要であろう。我々は漸く市島春城という深い森のまわりを回りはじめたばかりである。

（中略）『春城日誌』を経糸として、夥しい記録資料を参照としながら調査研究を続けていくこととしたい。

以来、日誌および関連する資料に接するたびにメモを作成し続けている。それらの中には、従来の市島の像とは異なるものも多々あることに遭遇することもしばしばであった。

例えば、市島の東京大学中退について「明治15年政変で下野した大隈の膝下に馳せ参ずるため」とされているが、資料の点からは父の事業の破綻

による経済的な理由が明らかになっている。早稲田大学（東京専門学校）との関係においては、草創期から継続して経営に深く関わっていたということではない。明治10年代末に短い講師時代があったが、その後代議士として政治生活が続いた。病を得て政界での活動を断念し、高田早苗に請われて1902（明治35）年に早稲田大学の経営に関るようになっていった。

代議士としては、従来殆ど「大隈重信の懐刀的存在として活躍」という範囲に留まり、具体的にどのような委員会に属していたかとか、法案提出があったという事実関係までには至っていない。今回の年譜には、「日誌」をたどることで、いくつかの事実を明らかに出来たと思う。しかし、その具体的な内容の研究については、今後の課題となろう。

残された資料に忠実に従うことを旨とし、ノートを作成し続けたものの一端を今回、早稲田大学図書館のご厚意により「市島謙吉年譜」として、「早稲田大学図書館紀要」に掲載させて戴けることになった。

時間的な余裕が必ずしも十分ではなかった。「春城日誌」を主とした記述は、大正初期までであり、その後は又の機会に譲ることとせざるを得なかった事をお断りしたい。加えて、この間についても遺漏も少なからずあると思っている。

そのため、今回は敢えて「稿」という形で載せていただくことを諒として貰いたいとお願いする次第である。

2009年11月7日 春城日誌研究会代表 金子宏二

典拠とした引用資料

アンダーラインは年譜典拠の表記。

特別に所蔵個所をしめしていないものは、全て早稲田大学図書館所蔵。

又、刊行された図書については所蔵を記入していない。

菰月蕨風楼日録 明治18-20年

春城日誌（一括してこの表記にした）（市島春城資料）

年次別表題は以下のとおりである。

明治28-42年 春城日誌

明治43-44年 双魚堂日誌

明治44-大正1年 双魚堂起居註

大正1-12年 双魚堂日誌

大正12-14年 小精廬日誌

覚書 春城八十年の覚書一附・平民論一 市島春城先生生誕百年記念 早稲田大学
図書館編刊 昭和35年

鯨肝録 学芸随筆鯨肝録（学芸随筆第5巻）市島謙吉著 東苑書房刊 昭和11年

憶起録 憶起録一來路之記一 市島謙吉自筆 [吉田文庫所蔵]

前原伝 前原一誠伝 妻木忠太著 昭和11年

広業館名簿 戊辰漫録所収（市島春城資料）

愧存経歴 愧存経歴文書（張込帖／市島春城資料）

慟哭録 市島謙吉自筆 [吉田文庫所蔵]

共話会演説集 明治十年前後一橋大学共話会演説集（市島春城資料）

梧堂言行録 岡山同窓会編 私家版 明治28年

桃浪紀游 市島謙吉自筆（市島春城資料）

和泉巖古宛書簡 市島謙吉自筆 [和泉家所蔵]

留客齋日誌 小野梓全集第5巻（所収） 早稲田大学大学史編集所編 早稲田大学
刊 1982年

小野梓年譜 図録小野梓（所収） 早稲田大学編刊 2002年

竹頭木屑録 市島謙吉自筆（市島春城資料）

百年史 早稲田大学百年史5巻・索引年表 別巻2巻 早稲田大学史編集所編早稲
田大学出版部刊 昭和53-平成9年

高田年譜 真辺将之編 高田早苗の総合的研究（所収） 早稲田大学大学史資料セ
ンター編刊 2002年

越佐会略歴 早稲田大学同窓越佐会略歴 附越佐会名簿 同会編刊 明治41－昭和6年

回顧録 市島謙吉著 中央公論社刊 昭和16年

戸籍謄本 原本複写

東洋小野梓君伝 山田一郎編 中央学術雑誌第22号付録 明治19年

郷土の碩学（所収） 佐々木美智子著 市島謙吉 新潟日報事業社刊 2004年

殖産協会姓名簿 日本石油会社誕生の背景と“殖産協会”の系譜（所収） 石川文三編刊 平成7

新潟県政党史 永木千代治著 新潟県政党史刊行会刊 第2版 昭和37年

藤原圭 藤原圭著 長岡地方における改進黨系同好会 長岡市史研究第2号所収

東京専門学校校友会名簿 同会編刊 明治22、27年

養痾漫録 市島謙吉自筆（市島春城資料）

読売新聞百年史 同新聞社編刊

朝野雑載 市島謙吉自筆（市島春城資料）

新潟県年表 新潟県史別編年表・索引 新潟県編刊 平成1

近代史年表 近代日本総合年表 岩波書店編集部編 岩波書店刊 第3版 1994年

吉田東伍年譜 吉田東伍博士年譜と著作目録—生誕百年記念祭— 早稲田大学史学会編 早稲田大学教務部刊 昭和39年

半峰昔ばなし 高田早苗著 早稲田大学出版部刊 昭和2年

回春日誌 市島謙吉自筆（市島春城資料）

北堂夜話 市島謙吉自筆（市島春城資料）

出版部100年 早稲田大学出版部一〇〇年小史 早稲田大学出版部編刊 1986年

日清印刷沿革 日清印刷株式会社沿革概要 同社編刊 昭和8年序

図書館史 早稲田大学図書館史—資料と写真で見ると—一〇〇年— 早稲田大学図書館図書館史編集委員会編 早稲田大学図書館刊 平成2年

落合雑記 市島謙吉自筆（市島春城資料）

市島徳厚伝 市島徳厚伝編述委員会（内橋潔代表） 稲作文化研究会刊 1977年

演劇博物館五十年 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編刊 昭和53年

自娛毫録 市島謙吉自筆（市島春城資料）

大日本印刷社史 七十年の歩み—大日本印刷株式会社史— 同社編刊 昭和27年

早稲田大学謝状綴 [早稲田大学総務部所蔵]

早稲田学報 早稲田大学校友会編刊

市島春城年譜稿

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠	
1860	安政7 万延1	2	17	1	越後水原にて市島直太郎長男として生まれる。幼名雄之助。	覚書、回顧録	
1868	慶応4 明治1	1 5		8	戊辰戦争おきる。戦乱を避け、吉田新田（西蒲原）に滞在。中信濃川氾濫に遭う。会津藩駐留の為、宗家は灰燼。角市の屋敷は残る。母の実家北蒲原郡西条移る。	近代史年表 覚書 憶起録 憶起録	
1869		2	2	18	9	前原一誠、越後府判事就任、5月上京。在任中、市島邸別棟に住居。この年前原一誠の書を貰う。	前原伝 覚書、回顧録
1870		3	1		10	広業館に弟豊次郎と同時に入塾。星野恒（後東京帝大教授）に教わる。北蒲原郡西条に一家をあげて移る。	広業館名簿、覚書 憶起録
1871		4			11	新潟学校入学。	憶起録
1874		7	7	20	15	新潟学校より褒状（正則数学進歩につき上、中等賞）。 新潟学校より褒状（正変之三課進歩につき上等賞）。	愧存経歴 愧存経歴
1875		8	夏		16	丹呉宗平と共に阿賀野川を溯り、会津、日光経由で上京。東京英語学校入学。明治8年夏、丹呉老人と同行し初めて東京に出る。番町熊倉美雅（工部寮勤務）方に帰宿。英語学校に入学、生徒数千人。後に英語学校寄宿舎に入る。	覚書、鯨肝録 憶起録
1876		9	7	10	17	東京英語学校試験点数表（東京英学校下等第四級一生）。 札幌農学校開校、同級生数名が入校。	愧存経歴 憶起録
1877		10	4		18	東京英語学校を東京大学予備門としたり、下等一級在学中であったが退学し、予備門を受験し直し上等六級に合格。高田早苗、天野為之等が既に在学していた。	憶起録
1878		11	9		19	東京大学文学部（政治学）に進学。高田、天野、坪内逍遙、山田一郎、有賀長雄、福井彦次郎、真崎孝人の8名が同級。東京大学内の演説のグループ共話会に属す。これは、先行した戊寅会を有賀長雄、三崎亀之助らと脱会し結成した団体。なお高田、坪内は晩成会に属していた。天皇北陸巡幸に伴い、父直太郎は新津駅で拝謁を許可されるが、書状到達が遅れ間に合わなかった。 東京大学共話会で下等社会教育論を演説。この年、父直太郎が岩船郡辰田村の所有地に養蚕業を営んでいたが、経営不振で経済破綻に瀕す。	憶起録 憶起録 慟哭録 共話会演説集 憶起録
1889		12	2		20	共話会演説稿「明治十年前後一橋大学共話	共話会演説集

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
	12	夏			会演説集」に「下等社会教育論」掲載る。 同資料に山田一郎、岡山兼吉他の稿。 岡山兼吉と中山道を京都まで旅行する。九州、四国にまで足を延ばす計画であったが中止。 同年、富士登山	憶起録、梧堂言行録 桃浪紀游、春城漫筆
1880	13	5		21	大学3年生。帰省。夏から10月にかけて家政整理に携わり、後父と共に上京する。母、弟豊次郎は西条丹呉家に留まる。叔父和泉巖吉（父直太郎弟）の支援を求め、月30円を受け学業を続ける。後、巖吉義妹ユキと結婚。	憶起録 和泉岩吉宛書簡
1881	14	10	27	22	大学4年生。春頃より放蕩に耽る。山田一郎、岡山兼吉に諫められ立ち直る。小川為次郎、高田、岡山、橘槐二郎等と小野梓のもとに集う。	憶起録 留客斎日誌
		11	17		小川、高田、岡山等と小野を訪ね、政党樹立を議す。	留客斎日誌
			27		小野、高田、市島等と協議、「我党微文」を決定。	留客斎日誌
					この月、「官吏及官公私立学校教員生徒見習生政談演説集会ノ儀ニ付書議」を岡山、山田一郎と出す。	憶起録、百年史
		12	24		東京大学退学願。家業破産、父の病気を事由とする。従来、小野等の結成する政党に参加するため、卒業を目前にして退学したとされている（八十年の覚書）。この願書では、経済的理由と明示されている。	愧存経歴
1882	15	1	16	23	東京大学総理加藤弘之より退学を承認される。	愧存経歴
		2	27		鷗渡会発足。	小野年譜
		3	10		三菱蒸気船会社傭の辞令。会計方傭、運賃課長月俸40円。	愧存経歴
		4	11		小野宛に岡山、山田一郎連署の書状、「謂市島之事也、直答之」	留客斎日誌
			13		小野を訪ねる。	留客斎日誌
			8		雉子橋大隈邸での観桜会に小野の紹介で小川為次郎、高田、岡山、天野為之、山田一郎、山田喜之助、砂川雄峻、石渡敏一等と参加。	梧堂言行録
			16		立憲改進黨結党	留客斎日誌
		6			『主権論』を岡山、山田（一）、山田（喜）、高田と共著で出版	留客斎日誌
		7	7		小野を訪問し一身上の相談。「市島來訪、談其身上之事」	留客斎日誌
			11		三菱蒸気船会社解雇辞令。 後年の回想によると、運賃課長として部下34、5名がいて、部長は浅田政文（岡山兼吉の友人）で小川為次郎は統計担当で	愧存経歴 竹頭木屑録

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		10	15 21		あった。この就職は、小野梓の義兄小野義真（岩崎弥太郎の協力者）の推薦であった。市島は、そうした環境にも拘らず、政治への志向が叶えられないことを理由として、退社を決意したとある。理事の荘田平五郎は、努力すれば海外勤務の機会もあるからと説得するが、決意は固かったという。また、当時学士が前垂掛（商人）になったと世間を驚かせた加藤高明（三菱から外交官、政界に転身、24代首相）の軌跡を思い、自省の弁も記している。	愧存経歴 百年史
		11	18 20		立憲改進黨入党、党籍証明。 東京専門学校開校式。校長大隈英麿、議員（評議員）小野、高田、岡山、山田（一）、山田（喜）、砂川、天野等。市島は議員、講師とも名前にはない。 「内外政事情」（隔日刊）創刊。山田（一）主幹、市島は監事。 小野に従い砂川と共に千葉県房州に遊説。 25日帰京。	覚書 留客斎日誌
1883	16	1 2 3 4 5 6 7 11	2 4 30 19 20 21 8 21 9 12 6	24	高田と静岡に遊説。 山田（一）等と小野を訪問。 この月に「内外政事情」廃刊。全38号。 「内外政事情」廃刊ノ顛末を執筆 この月「高田新聞」創刊に伴い、高田へ赴く。山田（喜）より春日山城に因み、春城の号を贈られる。 小野、「接市島書」。 小野、市島の下獄を知る。「高田事件」。「接高田新聞之電報、云市島以新聞之故下獄」。 小野、山田（一）に知らせる、山田（一）来宅。 新潟軽罪裁判所高田支庁判決「重禁錮15日、罰金5円」言渡。 立憲改進黨除名（党掌事 小野梓名）。 高田新聞「雑報欄」筆禍事件判決。 新潟軽罪裁判所高田支庁裁判長 裁判言渡 5月21日判決を破棄、無罪。 新潟軽罪裁判所高田支庁へ即時抗告申立。 新潟軽罪裁判所高田支庁高田新聞記事「一婦三夫」筆禍事件判決、15日重禁錮、5円罰金。 新潟県水原にて懇親会 小田島儀一郎、宇尾野藤作等有力者と会合。 新潟県東京専門学校在学生在が越佐会を結成、第1回会合を持つ。 小野梓、信越遊説、6～9日高田滞在、9日市島と会う。17日直江津で市島と合流、	高田年譜 留客斎日誌 同紙 覚書 覚書 留客斎日誌 留客斎日誌 留客斎日誌 愧存経歴 愧存経歴 愧存経歴 愧存経歴 桃浪記游 越佐会略歴 留客斎日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		12	1		18日高田にて別れる。 小野、「接市島書」。	留客斎日誌
1884	17	2	13	25	小野と会う。「到東洋館、市島、桑原来訪」。	留客斎日誌
		19	同上。「晩間市島告別、乃与山一（山田一郎）饒之万世橋頭、話到更深」。		留客斎日誌	
		3	1	高田新聞との協約「新聞社幹事の中川源造より新聞編集一切を委嘱される。	愧存経歴	
		3	1	小野、「接市島書」。	留客斎日誌	
		6	21	「高田新聞」筆禍事件で収監される。	回顧録	
		7	26		東京専門学校第1回得業式。	百年史
1885	18	4	23	26	小野梓を訪問。	留客斎日誌
		25	越佐会臨時大会にて、市島の出獄を迎える。出席者20名。		越佐会略歴	
		5	11	法科問題で小野梓を訪問。	留客斎日誌	
		6	23	新潟県五泉和泉新平八女ユキを入籍。	戸籍謄本	
		8	31	東京専門学校学術講演会 市島「監獄学一斑」を講演。 この後、擬国会、課外講演、夏期巡回講話会に頻繁に出る。	百年史	
		9		東京専門学校講師。政治原理、論理学を講義。	百年史	
		12	13		東京専門学校校友会発会式。 父直太郎、宮内省内事課写生字となる。日給30銭。	百年史 慟哭録
1886	19	1	11	27	小野梓肺結核で死去（享年33歳）。 『寄嶋渡会員書』を記す。政党政治の実現と、東京専門学校を私立大学とする小野の遺志の実現を訴える。	東洋小野梓君伝 菫月蘋風楼日録
		29	同上。			
		2	10	『東洋小野梓君伝』（山田一郎編）刊行に協力、執筆。	東洋小野梓君伝、 菫月蘋風楼日録	
		24	東京専門学校政治科試験で、市島の問題が多すぎると生徒から苦情。厳しく対応するもの26日に再試験を実施。	菫月蘋風楼日録		
		3		東京専門学校改革案を高田、天野、田原等と作成。学費を80銭値上げし、財政基盤を確保し、大隈家から財政的独立を果たす。	菫月蘋風楼日録、百年史	
		20	27	上総久留里の土田虎太の学校開設式に出席。高田早苗より新潟新聞主筆就任を要請される。午後、大隈重信と会見し、大隈の意向もありこれを受諾する。	菫月蘋風楼日録 菫月蘋風楼日録	
		4	26	前島密より小野梓の遺稿を托される。	菫月蘋風楼日録	
		5	10	東京専門学校講義録「政治原理」出版契約を横田敬太と交す。	愧存経歴	
		13		新潟行きを決す。	菫月蘋風楼日録	
		18		富士見軒にて市島の送別宴。	菫月蘋風楼日録	
20		ユキ夫人と東京を離れる。高崎まで鉄道で行き、陸路清水峠を越える。この間、『政治原理』の校正を続ける。	菫月蘋風楼日録			
6	13		『政治原理』 版權登録証を内務省から受け	愧存経歴		

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		7	12	19 28	る。 長男機誕生 『政治原理』第1版謝金受取る。 東京専門学校校友会規則・同会員名簿に市 島は議員。	戸籍謄本 愧存経歴 百年史
1887	20	8 9 11	18 18	28	この頃、市島は疎遠になっていた宗家市島 徳次郎との往来を始めた。 大隈英麿、東京専門学校校長を辞す。 前島密、東京専門学校第2代校長に就任 父直太郎戸籍から分かれ別戸籍とする。 新潟県有志と条約改正の議に付建言を元老 院議長大木喬任に提出。 新潟古町で政談演説会開催。 条約改正の第2回建言を提出。	鯨胆録 百年史 百年史 戸籍謄本 新潟県政党史
1888	21	5 6 7 8 11	10 11 20 2	29	日本石油設立総会 市島は殖産協会として 設立メンバーとなる。 『改進黨』出版。 後藤象二郎新潟県来訪、大同団結運動を展 開。市島等反対の社説を「新潟新聞」掲 載。 長女シツ誕生。 同好会設立。新潟市本町7番地新潟商会で 発会式。 前年設立した「殖産協会」を母体に結成さ れたもの。市島の企画発案による改進黨 系親睦団体として同好会は結成された。 新発田で市島が反対派から襲撃される。 (清水谷事件、新発田警察から被害者召 喚命令)。 『平民論』出版。	殖産協会姓名簿 同書 新潟県政党史 戸籍謄本 新潟県政党史 藤原圭 愧存経歴 同書
1889	22	1 2 3 9 9 10	1 11 5 21 9 18 25	30	『非大同団結論』出版。 時事新聞社電報で森有礼文相刺殺の報に接 す。 越佐議政会結成。新潟行形亭において開催、 40名結集、議長市島。 改進黨の政治結社として結成されたが、 参加者少なく振るわなかった。改進黨の 政治上の運動は同好会の名で行われた。 旧自由党員が集会し、越佐同盟会を結成 する。99名が参加。 越佐議政会、条約改正建白書。自由党系は 反対運動展開。 高田新聞事件の赦免証明書発行願を提出。 (同事件で大審院有罪判決が勅令で赦免 となる)。 同好会倶楽部竣工(新潟西掘四番町)。 同日夜、越佐同盟会機関紙「東北日報」号 外に大隈外相遭難の報が載る。同号外数 10枚が自由党系の嫌がらせ「祝落成式」 の髪斗紙に包まれて届く。	郷土の碩学 愧存経歴 新潟県政党史 新潟県政党史 新潟県政党史 愧存経歴 新潟県政党史、覚書

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		12			東京専門学校校友会名簿に市島は評議員として掲載。	東京専門学校校友会名簿
1890	23	7	1	31	第1回総選挙 市島は新潟県第2区（北、東蒲原、岩船郡）から出馬、次点で落選。定員2名は大同団結派（丹呉直平、加藤勝弥）が独占。 この選挙運動で、市島は水原の生家（当時宗家所有）に間借りして選挙事務所とする。	新潟県政党史 養痾漫録
		9	14		同好会（一時400名以上を擁した）解散決議、15日届出。 県警が政治結社と認定したことにより、参加者に動揺が生じ、解散に至った。	藤原圭 新潟県政党史
		10			読売新聞に入社。	読売新聞百年史
		11	1		二男昂生れる。	戸籍謄本
1891	24	1		32	高田早苗の後を受け、読売新聞主筆になる。	読売新聞百年史
1892	25	2	15	33	第2回総選挙で新潟県2区（北、東蒲原、岩船郡）から出馬、次点で落選。定員2名は自由党（丹呉直平、加藤勝弥）が独占。	新潟県政党史
		3			日社社（本野盛亨）と新聞主筆（読売新聞）嘱任契約、月俸80円。	愧存経歴
		12	8		東京地方裁判所から、官吏侮辱被告公判の呼出状を受ける。	愧存経歴
		15			同上	愧存経歴
1893	26	2	18	34	東京地方裁判所から、官吏侮辱事件控訴審の呼出状を受ける。	愧存経歴
		3	16		東京控訴院から、官吏侮辱事件控訴審の呼出状を受ける。	愧存経歴
		5	27	26	二女ヒサ生れる。 同上、控訴審で無罪判決。	戸籍謄本 愧存経歴
1894	27	3	1	35	第3回総選挙で新潟県第2区より出馬、落選。	愧存経歴
		8			東京専門学校幹事嘱任。小川為次郎の辞任に伴い市島が就任。	東京専門学校校友会名簿
		9	7		第4回総選挙で新潟県第2区より出馬、第1位で当選。	愧存経歴
		10	15		第7回臨時議会在が広島で開催、市島は高田等と共にこれに出席する。	半峰昔はなし、近代史年表
		12	22		第8回通常議会召集。開催期間24日から翌年3月23日。	近代史年表
		12	9		早稲田大学越佐会第100回并創立記念祝賀大会に出席。市島客員総代として講演す。	越佐会沿革
1895	28	4	27	36	東京専門学校大演説大会で「懐往談」を演説。	百年史
		8	3		三男芳雄生れる。明治29年4月9日早世。東京専門学校科外講演について継続的に行うことを告げる。	戸籍謄本、春城日誌 百年史
		11	1		新潟県改進黨と国権党の合同で越佐会結成。	新潟県政党史

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			11		幹事、坂口仁一郎、萩野佐門。 坪内逍遙宅において、市島、金子馬治等で 早稲田中学設立草案作成。	百年史
			12		高田早苗と談「半峰曰く友人中過去を語る もの少からず。君の如き、山喜（山田喜 之助）の如き皆な然り。然れとも過去を 語る様にては其人発達せざるなりと。此 言極めて味あり、余之を座右の銘となさ んと欲す」。	朝野雑載
			25		第9通常国会召集、会期28日から29年3月 28日。改進黨政務調査外務部に所属す。	春城日誌
			27		宗家市島徳次郎に奨学金支出を提言。吉田 東伍の地名辞書編纂作業補助として向う 1年間月額50円を支給と決す。	春城日誌
					北越諸党派議員集会、北越に関係ある各鉄 道敷設計画を一期繰上げる運動をなすこ とを議決す。	春城日誌
1896	29	1	1	37	東京専門学校校友、教職員を会して新年を 賀す。	春城日誌
			10		衆議院登院、伊藤首相の征清願末演説あり。	春城日誌
			11		東京専門学校新年宴会、講師学生300余名 参加。	春城日誌
			19		横浜に田原栄の経営する漆器工場を訪問。	春城日誌
			24		朝鮮渡航に関する移動令委員会議事に就任。	春城日誌
		2	3		宗家奨学金候補松木弘（東京法学院在学） を昆田文次郎紹介で面接、採用す。松木 は後弁護士、新潟県選出代議士。	春城日誌
			4		衆議院に前日提出の広軌鉄道に関する質問 書及び質問演説に対し、通信相より答弁 を得るが要領を得ず。市島の質問が政府 の急所をついたと評される。	春城日誌
			25		広軌鉄道に関する決議案を衆議院本会議に 提出するが、否決される。	春城日誌
			26		立憲改進黨解党大会に出席。	春城日誌
		3	1		進歩党結成（立憲改進黨、立憲革新党等）。 常議員30名のうちに市島選出される。	近代史年表、春城日誌
			10		広軌鉄道に関する建議案の理事に選出される。	春城日誌
			15		家族（父、弟、妻、長男、二男）と新橋丸 木写真店で撮影。	春城日誌
			18		広軌鉄道建議委員会（望月圭介委員長）を 市島主導で開催、建議案上程を満場一致 で可決。	春城日誌
			25		衆議院本会議で広軌鉄道建議案を上程、可 決される。	春城日誌
			29		第7議会召集。励精の廉により銀盃一組下 賜の沙汰を受ける。7月11日に賞勲局で 授受。	愧存経歴、春城日誌
		4	5		早稲田中学校開校式。3月中旬より本日迄 入学者86名、以降一週間に150名位に なる見通しと市島（同校幹事）は記す。	百年史、春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			6 13		三男芳雄発熱。9日逝去、11日火葬。 宗家二男市島清松、早稲田中学入学の件につき来話。	春城日誌 春城日誌
					市島直治、宗家奨学生候補（岡田猛熊紹介）として来訪。直治は東京大学農学部に進学、後実業家賀田金三郎の養子となり、台湾に渡る。	春城日誌
			25		横浜へ赴き、平沼専蔵を訪問し1千円の手形を請取。これにて平沼への借財は落着。	春城日誌
			27		宗家市島徳次郎の金沢別邸に遊ぶ。明治9年頃以来の訪問と記す。28日帰京。	春城日誌
		5	21		早稲田中学校役員会に会計報告をなす。	春城日誌
			23		加治川治水問題のため上京中の新潟県知事浅田徳則を訪ねる。	春城日誌
			25		共済生命保険に終身1千円の契約をなす。	春城日誌
			29		新潟行、6月8日帰京。	春城日誌
					妻、昂と同行。2人は長野善光寺を詣でる。市島は別れて芳雄の遺骨を菩提寺五十公野浄念寺に納骨のため新潟に行く。	春城日誌
			31		新潟にて進歩党支部結成式に列す。夜、行形亭にて祝宴。	春城日誌
		6	1		新潟にて進歩党演説会、市島は「臥薪嘗胆」と題して講演。	春城日誌
			3		宗家市島徳次郎に育英事業を勧める。重ねて吉田東伍の地名辞書編纂事業への支援を要請。	春城日誌
			24		東京専門学校法科改善問題の相談会、鳩山、高田、平田譲衛、中村進午等参加。平田を法科講師主任に決す。	春城日誌
			28		坪内逍遙と東京専門学校信越巡回講義について話し、坪内の参加の承諾を得る。	春城日誌
		7	3		小田島儀一郎より羽越鉄道発起人の要請がありこれを受ける。羽越鉄道は、大正3年に新津一村上間が開通、昭和13年に秋田までの全線が開通し羽越本線となる。	春城日誌
			18		陸軍省を訪れ、早稲田中学の教練のため魔銃の払い下げを求める。	春城日誌
			30		新潟県下の信濃川、阿賀野川が大雨で決壊。水害見舞のため会津経由で新潟に行く。8月1日新潟着。東北巡回講義途中の高田早苗と会う。3日新潟で県選出代議士、県会議員と水害対策善後策を議す。13日まで滞在、15日帰京。	新潟県年表。春城日誌
		8	28		伊藤首相辞表提出。	近代史年表
		9	9		塩沢昌貞アメリカ留学送別会に出席。来会者25名。	春城日誌
			20		三女スミ誕生。	春城日誌、戸籍謄本
			22		松方首相（18日首班指名）、大隈を外相に任命。松隈内閣成立。市島は、4日に大隈入閣について記す。	近代史年表、春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠			
		10	30		高田と内閣組織について密議。 大隈伯遭難記念会。明治22年10月18日、外相とし条約改正に取組んでいたが、反対派のテロに遭い右脚を失う。以後、その日を記念し、保存している切断した脚を展示したという。大隈没後、医学標本として日赤看護学校の資料室に保存されていたが、現在は佐賀の大隈家善寺龍泰寺に安置されている。	春城日誌 春城日誌			
			11			11	市島宗家長男亀之助の病が精神的なものと言われる。	春城日誌	
		12	13		新潟行き。7月の水害善後策の協議、宗家市島徳次郎と吉田東伍の地名辞書編纂事業への援助要請、三男芳雄の墓石建立等の用件を果たし、22日帰京。	春城日誌			
			25		地名辞書編纂事業のため学生補助金見積を作成し、宗家番頭市島文太郎へ送付す。	春城日誌			
		11	10		岡山兼吉事務所の解散を昆田文次郎、木村糸市等と議す。同月27日解散と決す。	春城日誌			
			11		五大法律学校連合で官吏登第無試験運動への協力を大隈重信に要請、不遇。12日再訪、意を通ず。	春城日誌			
			13		東京専門学校擬国会、選挙法を議す。市島、内相として反対意見を陳べる。	春城日誌			
			20		東京専門学校体育館（七徳堂）落成、市島は幹事として演説す。	春城日誌			
			31		家族と7月に下賜された銀杯に酒を酌み越年。書生、女中共12名。「十年前、小石川大和町の新妻と両々対座、年を送りたると比すれば余の家も洵とに膨張せり」と記す。	春城日誌			
		1897	30		1	1	38	東京専門学校にて新年祝賀会。大隈家、前島家に年賀。高田と「密議」す。	春城日誌
					1	4	吉田東伍並びに地名辞書編纂に関する書生7、8名と他の書生を合せ13名で新年宴会、午後から夜9時に至る。	春城日誌	
						9	鉄道同志会協議員会に出席。	春城日誌	
						12	登院、皇后崩御のため7日間休会となる。	春城日誌	
23	23			礼服の件に付市島等の建議が採用の旨、官報に公布の通知を受ける。	春城日誌				
	1			鉄道公債期限法案の特別委員に指名される。	春城日誌				
2	5			京阪行き。7日より大葬に列す。滞在中、琵琶湖疎水、黄檗山、宇治平等院、奈良法隆寺、大阪見物等。又、亡兄芳雄の分骨を東本願寺に埋葬依頼す。12日帰京。	春城日誌 春城日誌				
	21			新発田青年会発会式に列す。	春城日誌				
	25			東京専門学校体育部々長となる。	百年史				
	27			東京専門学校校友会大会兼鳩山（校長）衆院議長就任祝、平田譲衛外遊壮行会に出席。	春城日誌				
	28			東京専門学校擬国会、貨幣問題、民法第一	春城日誌				

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		3	4		糸問題を議す。市島、「小使兼議長」と記す。	春城日誌
			5		足尾鉍毒事件について田中正造等との集会に出席。	春城日誌
			10		東京専門学校借財問題終結。「多年、学校の病疾たりし平沼専三よりの借財問題、藤田等の尽力で返済終り、この日証書を受領」と記す。	春城日誌
			23		戎器取締法案、他三件委員会理事に就任	春城日誌
			24		阿片法案委員会理事に就任	春城日誌
			28		宗家二男市島清松学業の件につき来話。	春城日誌
			28		東京専門学校擬国会。鳩山校長が議長の予定であったが遅刻、校友前川慎造が代行、後高田、市島が務める。	百年史
			29		市島徳次郎、貴族院議員任期満了につき、新潟県出身の代議士13名を招款。26日に依頼を受け、市島は幹事役を務める。	春城日誌
			31		昆田文次郎と高田を訪れ、足尾鉍毒事件について密議。	春城日誌
		4	8		高田早苗、外務省通商局長就任。この日外務省初出仕。市島訪問、市島の処遇について談。	春城日誌
			11		東京専門学校春季郊外運動会を向島墨田園で開催、市島は体育部長として列席。	春城日誌
			14		大隈外相公邸で東京専門学校評議員会開催、鳩山校長他17、8名参加。学校拡張基金の件に付協議し、同委員に鳩山、犬養毅、高田早苗、天野為之、坪内逍遙、小川為次郎、市島の7名が選出される。	春城日誌
		5	4		矢野文雄、清国公使として赴任するにあたり送別の宴を芝紅葉館で開催、市島出席。	春城日誌
			7		新潟行き。前貴族院議員市島徳次郎の後継選出のための幹事をなし、20日帰京。	春城日誌
			25		大阪行き。学校拡張計画について、京阪への周旋を在阪中の大隈外相を訪い依頼する。	春城日誌
			26		成瀬仁蔵在阪、女子大設置の京阪発起人会を開催するが、市島は欠席。	春城日誌
		6	10		新潟県選出貴族院議員に五十嵐甚蔵当選。市島は当初佐藤伊左衛門を推すが、佐藤が固辞。	新潟県政党史、春城日誌
			12		宗家家政改革について市島文太郎と協議。	春城日誌
			18		吉田東伍の地名辞書編纂のため、参考用として内閣文庫資料閲覧、提供を同文庫高橋翰長を訪問し依頼する。	春城日誌
			19		近衛篤磨貴族院議長を訪問、東京専門学校卒業式への臨席を請い、承諾を得る。	春城日誌
			23		先月帰省の際、新潟より船便で送った書籍の行李が盗難に遭ったとの連絡を受ける。行李の内容は宗家より借用した「岱海堂	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		7	8		翁手記文稿」4巻、「集古十種」外26部。取り返しのない損失と記す。	春城日誌
			13		石渡敏一を訪い、学校法科講師継続を依頼し、承諾を得る。	春城日誌
			20		大隈外相官邸で東京専門学校評議員会開催、出席。	百年史
					東京専門学校創立15周年祝典。鳩山校長病床にあり、市島幹事が校長訓辞代読など全てを代行。	春城日誌
			26		同日東京専門学校得業式を挙る。市島、病床の鳩山校長の代行を務める。	春城日誌
					鳩山校長宅にて高田等と五大法律学校を連合統一した大法律学校となす件について協議。東京専門学校は参加しない方針とする。後日、山田喜之助より構想は潰れたと聞く。	春城日誌
		8	6		山田一郎を早稲田学報編集委員（主任）となす披露を行う。	春城日誌
			8		宗家金沢別邸を訪う。五十嵐敬士、菊池三九郎、今井鉄太郎同行。金沢文庫を見学。同文庫が平沼専蔵の資金援助で経営基盤を確立したと聴く。	春城日誌
			15		妻子と王子に遊ぶ。又、大宮公園に往き宿に一泊し、16日帰京。上野から浅草に散策し夕刻帰宅。	春城日誌
		9	9		弘暎、大暴風雨。	春城日誌
			10		芝紅葉館で東京専門学校講師招待会、出席す。参加者60余名。	春城日誌
			13		吉田東伍の四谷愛住町の新居を訪問す。吉田、10月に郷里より夫人を迎える。	春城日誌、吉田東伍年譜
			14		田中唯一郎の農商務省任官を周旋中であつたが、不調に終る。	春城日誌
					同日、新任官進歩党党員の懇親会が京橋伊勢勘で開催、出席。	春城日誌
			19		早稲田中学校収入不足について坪内逍遙と大隈重信を訪問し、助力を請い承諾を得る。	春城日誌
		10	3		永田新之充（読売新聞記者）、小野梓伝執筆につき来話。増田義一に小野梓伝の執筆を依頼され短期間にこれを仕上げた。12月13日に市島に届けている。	春城日誌
			9		早稲田中学校新校舎落成式に列す。	春城日誌
			23		山田一郎と談。山田が一旦東京を離れ、議会開会の頃に上京すると告げられる。市島はこれに不満を漏らす。	春城日誌
		11	2		進歩党代議士会に出席。松方内閣への連携問題で犬養毅、長谷場孝紀等激論。	春城日誌
			4		同上。討論4時間に及ぶ。	春城日誌
			5		宗家二男市島清松、東京専門学校英学部に入学を決める。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			21		東京専門学校体育部秋季大会。嘉納治五郎講演。市島20日から感冒を病む。この日押して体育部長市島は出席す。以降病臥す。12月6日医師に外出を許可されるが、今後、大酒を戒むべしとの注意を受ける。	春城日誌
		12	10		早稲田大学越佐会秋季大会に出席。市島越佐会経歴、設立趣旨を講演す。	越佐会略歴
			18		進歩党大会に出席。政府との連携を断ち内閣更迭を求める決議をなす。	春城日誌
			21		議会開会。第8部に属す。	春城日誌
			22		新潟県下が7月から9月に洪水に見舞われる。県選出代議士と水害善後策を協議し、小宴を持つ。	新潟県史、春城日誌
			25		議会出席、進歩党より内閣不信任案を提出。直後、議長が全員起立を命じ、解散の聖勅を朗読。市島は「議会死す」と記す。退院後同志200余名で懇親会を持つ。	春城日誌
			26		進歩党評議員に選出される。	春城日誌
			27		新潟県選出貴族院議員五十嵐甚蔵主催の同県出身代議士の招飲会に出席。	春城日誌
1898	31	1	2	39	佐藤伊左衛門、五十嵐甚蔵、市島徳次郎等へ年始。	春城日誌
			9		静岡県校友会に臨む、酒井牧之助他25名出席。10日帰京。	春城日誌
			16		地名辞書編纂につき出版方針を富山房坂本嘉治馬と吉田東伍宅に会し協議。	春城日誌
			19		佐藤伊左衛門の招飲で、貴族院議員選出の際の五十嵐甚蔵との蟻りを解く。	春秋日誌
			29		新潟県岩船郡郷友会に出席し、演説をなす。同日、牛込での校友大会並に大西祝留学送別会に臨む。80余名出席。	春城日誌
			30		吉田義孝、加治川瀬替問題で出京、来訪。佐藤伊左衛門と上京中の勝間田県知事を訪問。	春城日誌
		2	4		内務省古市土木局長を訪ね、加治川瀬替の件で技師雇入れの相談をなす。横浜にて東京大学同窓会開催、出席す。参加者14名。	春城日誌 回顧録
			6		横浜に行き、山田一郎の選挙費用の工面をなすが不調に終る。	春城日誌
			13		山田一郎、衆議院選立候補を断念するとの報。14日、立候補を勧める電報を發す。15日山田立候補を決意。	春城日誌
			21		新潟行き。25日新発田着、高橋館を選挙事務所として選挙活動を行う。	春城日誌
		3	1		高橋館にて国会報告を行う。来会者60名。	春城日誌
			15		第5回総選挙、市島は新潟県第2区から立候補。16日票読みの結果圧勝と判断。	春城日誌
			18		開票結果、1,418票でトップ当選。第2区定員2名は市島と佐藤伊助の進歩党が独	春城日誌、新潟県政党史

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			24		占。同日、高橋館で慰労会を開催す。	春城日誌
		4	1		帰京。25日以降の記事を失う。この間東京専門学校経理の始末に忙殺される。	春城日誌
			17		新潟行き。衆議院議員当選の礼及び各地での祝賀会出席。8日に水原の旧居を訪問等。15日帰京。	春城日誌
			21		東京専門学校大運動会を墨田園で開催、市島は大会会長。	春城日誌
		5	21		尾崎紅葉を訪ね浜町中村家で飲む。	春城日誌
			24		越佐新聞5千号へ祝辞を送る。	春城日誌
			3		進歩党陸海軍部政務調査会に出席。	春城日誌
			8		進歩党臨時大会に出席。150～160名参加、議会討議方針を議す。	春城日誌
			21		衆議院決算委員会理事に当選	春城日誌
					同日、北越7州貴衆両院議員の面議会に参加。	春城日誌
			23		衆議院決算委員会で臨時軍事費調査委員会設置案提出、採択される。	春城日誌
					同日、水害地租特免の件につき議会省略建議を提出、可決される。	春城日誌
			24		進歩党代議士会で選挙法改正の重要な3、4点は皆市島の意見の如く決す。	春城日誌
			25		衆議院に選挙法改正案が上程され、伊藤首相演説。市島、首相に質す。	春城日誌
			27		選挙法改正委員に選出される。	春城日誌
			28		五大法律学校協議会に出席。卒業生判任資格請願を議決する。	春城日誌
		6	31		選挙法改正議案整理委員に選出される。	春城日誌
			2		外国債を募る件に付委員会設置に伴い委員に選出される。	春城日誌
			8		20日、東京専門学校への行幸予定の皇太子を迎える準備に務めるが、12月に延期となる。	春城日誌
			9		坪内逍遙と文科生検定試験特典を文部省に申請する件で協議、哲学館に井上円了を同伴で訪れる。	春城日誌
			10		地租増徴案が衆院で自由、進歩両党の反対で否決され、解散。「本日、議会死活の日」と記す。	春城日誌
			13		進歩党評議員会に出席。自由、進歩合同交渉の結果報告。自由党の通牒次第、進歩党解党、新党樹立と決す。	春城日誌
			14		北越鉄道会社より沼垂一長岡間開通の報に接す。	春城日誌
					同日、野党懇親会に出席。会衆400名余、大隈重信、板垣退助出席、演説あり。会后、新潟県出身同志と県下憲政党結成の打合せ。	春城日誌
			17		文科検定試験特典請願のため哲学館、国学院との連合会。井上円了(哲学館)、今	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			21		泉定介（国学院）等、東京専門学校は坪内と市島出席。 進歩党評議員会に出席、自由党との合同を議す。	春城日誌
			22		憲政党結成大会開催、出席。800名余参加。大隈、板垣の入党が報告される。	春城日誌
			23		新潟党組織について同志と協議、7月5日解党式、6日結党式、7日演説会とす。 江部淳心（淳夫）、波多野英太郎紹介にて宗家奨学金を与え、高等学校へ進学することを約す。江部は、東大文学部を卒業。後熊本、高知高校教授。	春城日誌
			24		文科検定試験特典運動で国学院、攻玉社、東京専門学校が協議、出席。	春城日誌
			26		大隈重信と横浜校友会に出席、会衆70余名。	春城日誌
			30		大隈内閣成立（首相兼外相大隈、内相板垣の隈板内閣）	近代史年表
		7	1		芝公園に設けられた憲政党本部集会に出席。大隈、板垣他閣僚全員出席。	春城日誌
			4		市島の任官を巡って、高田早苗は自己の事より市島の任官を優先する働きかけをする。	春城日誌
			5		農商務省の局長級を挙げるが、競争が激しい旨を伝えられる。	春城日誌
			11		学制研究会（長岡護美会長）に出席、私立学校連合運動について演説す。	春城日誌
			15		新潟県憲政党支部設置の祝電を發す。 私立学校連合会開催、私立待遇改善を議決し、市島、江原素六、長谷川泰、杉浦重剛 棚橋一郎、飯田宏作、今泉定介を委員として選出。	春城日誌 春城日誌
			20		東京専門学校卒業式。司法、陸軍を除き、大隈首相等閣僚参列。	春城日誌
			21		東京専門学校校友会大会に参加。出身閣僚、任官者（高田早苗は文部省参事官）等113名出席。別席で高田とビールを飲み、市島の任官問題、文部省の秘密、私立学校連合会の事等話す。	春城日誌
			23		私立学校特典の件等で、尾崎行雄文相に面談す。市島、地誌材料編纂公示を建言、杉浦重剛、今泉定介と杉田次官、高田参事官に面談。	春城日誌
		8	25		第6回総選挙のため新潟に行く。	新潟県政党史、春城日誌
			10		投票日。12日開票結果、市島1,882票でトップ当選、2位は佐藤伊助で共に憲政党が制す。19日帰京。	新潟県政党史、春城日誌
			13		大隈重信より当選祝贺電報、14日板垣退助より同電報。	愧存経歴
		9	5		井上円了来訪、私立学校連合運動の顛末を聞く。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			12		先に法科講師を石渡敏一に依頼し拒絶された代わりに高井政章に承諾を得るが、後書面で断られる。	春城日誌
			25		読売新聞紙上に市島が某県知事候補に挙げられたとの記事。	春城日誌
		10	7		私立学校待遇問題について高等教育会議が開催、傍聴す。私立学校卒業生への教員登用を無試験（中学卒、私立の高等学校卒が条件）を可決す。夏以来の運動が奏功と記す。	春城日誌
			9		高田早苗、坪内逍遙と東京専門学校を法人とすることを協議。	春城日誌
			10		北越倶楽部発会式に出席。	春城日誌
			26		尾崎文相、「共和演説事件」により辞表提出。後任選出で内閣紛糾す。	春城日誌
			28		憲政党分裂に危機と記す。	春城日誌
			30		越佐倶楽部発会式に参加。	春城日誌
			31		「吾党四大臣辞表呈す」と記す。大隈内閣総辞職。	春城日誌
		11	1		憲政党旧進歩党派が神田錦輝館に決起集会。	春城日誌
			3		憲政本党を結成。	近代史年表、春城日誌
			4		憲政本党事務所で秘密会。議長問題を議す。河野広中を推すことを決議。	春城日誌
			7		議会召集、議長選で敗北す。	春城日誌
			20		大隈重信招待の観菊会に出席。	春城日誌
			26		東京専門学校の社団法人認可。社員大隈英麿、鳩山和夫、高田早苗、天野為之、坪内逍遙、市島の6名。	百年史
			27		大宮校友会に高田早苗、小川為次郎、田中唯一郎と共に出席。	春城日誌
		12	29		山県内閣、憲政党（旧自由党系）と連携す。	春城日誌
			4		東京専門学校擬国会。会場の大講堂入口に庶民院の扁額を掲げる。軍事費削減問題を議す。市島は政府委員として農商務相。	百年史、春城日誌
					同日、皇太子大隈邸に行幸。帰途の折、市島は議会を中断、皇太子を見送る動議を提出、これを可決し、一同庶民院前に整列し別を告げる。	春城日誌
			10		地租特別免除法案の委員に指名される。	春城日誌
			15		地租増徴反対集会に参加、700～800名参加。官警より解散を命じられる。	春城日誌
			19		紛糾する地租増徴問題で、憲政党硬派は地租3.3パーセントを主張。30日の本会議で可決。	近代史年表、春城日誌
1899	32	1	5	40	議員新年会に参加。「平年に比すれば十分の一、頗る寂寒」と記す。	春城日誌
		4	3		上野梅川樓で東京大学同窓会に出席。30名余出席。逍遙の当世書生氣質を擬した壮士芝居等の余興を演ず。	回顧録
			7		熱海行き。11日帰京。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		5	21		越佐出身東京専門学校校友、学生と会す（越佐会）。又、大隈重信の出席を得る。大隈邸温室にて写真撮影。	春城日誌
			27		五大法律学校懇親会に市島、杉田金之助、田中唯一郎と出席。	百年史
		8	1		東京専門学校夏期巡回講話会。高田、長岡、新潟、新発田、村上、新津、長野等。市島は天野、坪内、増田義一、斎藤隆夫とこれに加わる。	百年史
		10	3		四女ミツ誕生。	春城日誌、戸籍謄本
		12	10		東京専門学校擬国会。軍備緊縮建議案を議す。市島は鳩山の後を受け、午後議長を務める。	百年史
1900	33	1	3	41	宗家奨学生松木弘、市島直治、江部淳夫が年始に来る。	春城日誌
			5		暮以来滞在していた叔父和泉巖吉、新潟に帰る。	春城日誌
			6		新潟行き。加治川瀬替問題について協議の目的。12日帰京。	春城日誌
			14		憲政本党代議士会に出席。営業税法改正案を議す。	春城日誌
			19		金曜会に出席。矢野文雄の支那三憂論演説を聞く。	春城日誌
			20		衆議院学制改革調査会に出席。同調査会建議案が23日に上程、可決。	春城日誌
			22		衆議院本会議で佐渡真野宮保存建議署名を集める。	春城日誌
			24		新任の新潟県知事千頭清臣の招飲会に参加。	春城日誌
			25		選挙法改正委員会委員となる。	春城日誌
			26		佐渡真野宮（順徳帝遺蹟）保存の建議案を本会議に提出、提案者代表として意見を陳述。	春城日誌
			29		選挙法改正委員会に出席、激論ありと記す。	春城日誌
			30		東京専門学校職務章程を高田早苗、坪内逍遙と協議	春城日誌
					芝紅葉館で東京専門学校春季校友大会開催、出席。	春城日誌
		2	1		佐渡順徳帝に関する建議案、委員会可決。7日の本会議通過。	春城日誌
			7		小学校国庫補助委員に選任される。この日の本会議で軍事費決算に就いて質す。東京専門学校評議員会に出席、職務章程を可決。	春城日誌
					法人定款改正。理事鳩山和夫（校長）、高田早苗（学監）、会計監督市島、幹事田中唯一郎、寄宿舎長松平康国、図書館長浮田和民。	百年史
			9		小学校国庫補助委員会で補助案を可決。市島は大蔵当局の答弁を求める少数意見を陳べる。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
				16	憲政本党代議士会で足尾鉅毒事件について被害地刺殺談と予防法実施の不備を指摘。調査会再設建議案提出決議（議会へは未提出）	春城日誌、百年史
		3	3		吉田東伍編大日本地名辞書第1冊上出版。	吉田東伍年譜、春城日誌
		7	11		東京専門学校評議員会に出席、学校組織改革を議す。大学部、研究科を明治35年に開設、高等予科の設置、図書館及び校舎の新設、留学生派遣等を決定し、このための募金活動を行うこととした。翌年1月30日の校友大会で新構想を説明。	百年史、半峰昔ばなし、春城日誌
		11	20		市島徳次郎と北海道旅行。8月6日帰京。市島徳次郎援助で合宿所を市ヶ谷砂土原町に設ける。市島清松の学業支援のため松木弘、江部淳夫等の寄宿所とする。	春城日誌 春城日誌
		12	15		憲政本党党則を改訂し総理を置くこととし、大隈重信を推す。	近代史年表
1901	34	1	30	42	東京専門学校校友大会で学校改革案を提示し、このための基金募集活動の協力を求める。基金募集委員長前島密、専務委員市島。	百年史
		3	23		東京専門学校擬国会。靖国神社に関する建議案を議す。市島議長の前定であったが欠席ため田中唯一郎が代行。	百年史
		4	4		早稲田大学越佐会臨時会に出席。市島東京専門学校を大学となすにつき設立寄付金を募る。	越佐会沿革
		8	5		長男機を伴い新潟行き。市島徳次郎と清松学業のことなどを協議す。	春城日誌
			13		新潟にて咯血。	春城日誌
			12	14	熱海にて翌年3月5日まで療養のため滞在。回春日誌3巻を筆す。	回春日誌
1902	35	3	5	43	帰京。	回春日誌
		4	2		市島清松のために設けた学堂（寄宿舎）を解散。	春城日誌
			12		長女シズ、三輪田女学校入学。	春城日誌
			16		田中唯一郎来訪、印刷会社設立計画案を齎す。後、日清印刷株式会社として明治37年に設立される。	春城日誌
			19		市島家の不幸続きを歎く記事。叔父和泉巖吉の食道癌、父直太郎の肺患、弟豊次郎の中風症、そして市島自身の肺疾患、「全家の厄災極に達す」と記す。	春城日誌
		5	10		京都市行き。大隈重信の京阪行きとあわせ同地での基金募集運動のため。17日帰京。	春城日誌
			29		この間、京都各所を巡り西京雑記を筆す。新潟行き。8月の総選挙に市島は出馬せず、坂口仁一郎を新潟進歩党候補とする周旋をなし、31日叔父和泉巖吉を見舞い、6月2日帰京。	春城日誌、新潟県政党史

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		6	12		子供と鎌倉行き。15日帰京。	春城日誌
			15		新潟進歩党評議員に推挙される。	春城日誌
			25		佐藤伊左衛門来訪、市島宗家騒動一件について談論。	春城日誌
		7	14		高田早苗より東京専門学校図書事務並びに募金事務を担当することを勧められる。	春城日誌
			15		東京専門学校第19回得業式に出席。	春城日誌
			23		同日、叔父和泉巖吉の訃に接す。20日葬儀につき、書生市島喜代治を代理に遣す。東京専門学校図書館事務について館長浮田和民を訪う。	春城日誌
			29		同上、高田早苗を訪う。	春城日誌
		8	1		東京専門学校図書館長として初出勤。午後、大橋図書館を訪ねる。	春城日誌
			2		上野図書館に田中稲城館長を訪ね図書館管理法について意見を交わす。	春城日誌
			5		坪内逍遙を訪ね図書分類について協議。6日、図書館で坪内と和漢書目録修正を協議。	春城日誌
			11		高田早苗と図書館業務について協議。市島の蔵書を寄託する代わりに建物会社からの借入金1,500円と利息を東京専門学校負担とすることに決す。又、市島は図書館長、募金事務統括担当として手当月額100円と決す。	春城日誌
			12		第7回総選挙新潟選挙区結果（相馬一郎、丹後直平当選、市島文太郎落選）の報。	春城日誌
			16		市島自身の負債高を取調べ総額6,000円余と判明。	春城日誌
			21		午後、鎌倉に遊ぶ。17日帰京。東京専門学校新築構内で大隈重信と会い新邸に案内される。図書館で館規則を脱稿し午後坪内逍遙と同規則を協議。	春城日誌 春城日誌
			27		牛込区山吹町192番地に転居。当面は機、昂の住居とし、妻、女子は中猿楽町住いとす。	春城日誌
		9	17		父直太郎死去、享年64歳。19日葬儀、20日父の回顧を慟哭録として筆す。	春城日誌
			18		大隈英麿の東京専門学校社員辞退決議書に捺印。	春城日誌
			29		東京専門学校基金募集委員会開催、募集運動の部署を定める。	春城日誌
		10	3		基金募集のため高田早苗と横浜に赴き、原富太郎、大谷嘉兵衛等を訪問。6日から11日まで連日赴く。7日7,500円、11日2,500円の寄附を得たと記す。	春城日誌
			13		横浜へ基金募集に赴き、校友9名から800円の応募を得る。	春城日誌
			14		基金募集この日まで24万円に達すと記す。	春城日誌
			19		東京専門学校20周年記念会並に早稲田大学	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					開校式。来会者4,000名。鳩山和夫校長、高田早苗学監、大隈重信の挨拶の後、来賓加藤弘之元東大学長、伊藤博文元首相の演説がある。大隈邸にて園遊会、皇居二重橋まで提燈行列を以て祝賀を終える。市島は子供達と九段下から列に加わり祝意を表す。	
				20	帝国ホテルに全国校友会開催。大隈重信等200名余出席。席上、開校以来の功労者、歴代校長と並び、高田早苗、坪内逍遙、天野為之、市島等が表彰を受ける。	春城日誌
				22	高田早苗宅での早稲田大学事務職員秋季慰労園遊会に出席。	春城日誌、高田年譜
				31	明朝、郷里での父の葬儀のため新潟行きの予定のところ、叔父勇五郎が傷害事件を起こした事により、11月1日に巢鴨の東京精神病院への入院のため延期する。	春城日誌
		11	2		新潟行き。6日菩提寺浄念寺にて父直太郎の葬儀を営む。8日帰京。	春城日誌
				8	留守中5日に執達吏が来て衣類その他を仮差押との事を聞く。13日差押品競売される。	春城日誌
				10	大隈重信邸にて観菊会に出席。小松宮、梨本宮、井上馨、松方正義等1,200名参加。	春城日誌
				24	不在中、差押品競売される。	春城日誌
				29	叔父勇五郎を巢鴨病院へ入院するにつき、官費入院の認可を得る。	春城日誌
					同日、京阪行き。京都、大阪、神戸の校友、財界人を訪ね早稲田大学基金募集を依頼。12月24日帰京。	春城日誌
				25	亡父直太郎百か日の法要を四谷東信濃町の弟豊次郎宅で営む。	春城日誌
				27	早稲田大学社員会開催、商科設置並にその新校舎、高等予科校舎について協議。	春城日誌
1903	36	1	1	44	忌中につき年始の礼を廃す。	春城日誌
			8		早稲田大学図書館の事務を開始。	春城日誌
			13		基金募金のため京阪に赴く。2月1日帰京。	春城日誌
			14		高田早苗父貢平死去の報に接す。	春城日誌
			18		「蟹泡録を筆し無聊を遣る」と記す。大正10年『蟹の泡』として出版される。	春城日誌
		2	2		叔父勇五郎死去、享年59歳。	春城日誌
			6		神田猿楽町の自宅を江草斧太郎（有斐閣主人）に1,400円で売渡を決める。	春城日誌
			9		牛込南山伏町6番地に転居。	春城日誌
			10		松木弘、新潟にて弁護士開業のため告別にくる。	春城日誌
			20		基金募金のため京阪に赴く。3月4日月ヶ瀬に観梅。6日帰京。	春城日誌
		3	7		牛込水道町38番地に借家を求め転居。後大正6年に東五軒町に移るまで過す。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			17		尾崎紅葉が胃癌で余命3ヶ月と知る。	
			21		市島直治（宗家奨学生）のドイツ留学を見送る。	春城日誌
			26		新潟真島桂次郎より加治川瀬替問題につき来県要請を受け帰省。4月3日、新発田で総代会開催、紛糾するが「大地主の決意で漸く纏まる」と記す。5日帰京。	春城日誌
		4	7		高田早苗の招きで尾崎紅葉と訪れる。紅葉の病を慰めんと坪内逍遙、長田秋濤、角田竹冷、梶田半古、武内桂舟が来会。	春城日誌
			8		古河市兵衛死去につき大学を代表し弔問。	春城日誌
			13		早稲田大学社員会。学校敷地問題を議す。	春城日誌
			19		早稲田大学春季運動会を子供たちと観る。	春城日誌
			23		大阪出張中の高田早苗の要請で京阪へ赴く。25日京都で京阪の基金寄附者への謝礼招飲会に列席、来会者60余名。26日帰京。	春城日誌
		5	1		文庫協会（早稲田大学が当番幹事）開催、市島の発議で10月に珍書展開催を決議。	春城日誌
			7		大隈重信に招かれ高田早苗、鳩山和夫、浮田和民等と共に晩餐の供を受ける。	春城日誌
			8		朝血痰あり、病後初めてとて医師宮本伸を招き診察を受け心配なしと告げられる。	春城日誌
			13		二水会開催、3月の第8回総選挙当選の校友代議士を祝す。	春城日誌
			14		早稲田中学校教頭今井鉄太郎の危篤を聞き大学病院に赴くが既に死亡と知る。15日葬儀。	春城日誌
			18		東京帝大図書館を訪問、館長和田万吉に案内され館内見学。	春城日誌
			31		文庫協会臨時大会を大橋図書館で開催。図書館事項講習会を開催することを議決す。	春城日誌
		6	1		早稲田大学見学の議員30余名を応接す。	春城日誌
			5		妻ユキの病状を憂い「内人、余の病に感染し昨年頃より往々血痰を吐く。余の憂へんことを慮り今まで秘し置ける事を始めて聞き悲痛の情に不堪」と記す。	春城日誌
			7		岡山栢堂十周年記念会開催。岡山親族をはじめ70余名参加。	春城日誌
			9		二男昂、早稲田中学校に入学許可さる。	春城日誌
		7	11		早稲田大学図書館和漢書目録出来。	春城日誌
			13		早稲田大学社員会開催、予決算を議す。引き続き評議員会開催、30名参加。	春城日誌
			15		第20回得業式。これまで式後の宴は大隈家の主宰のところ、今回より大学が行う。	春城日誌
			16		芝紅葉館にて校友大会、出席す。	春城日誌
		8	1		基金募集のため北海道出張、桑田豊蔵同行。2日盛岡にて南部（大隈）英麿を訪問。函館、札幌、小樽など各地で基金募集を行い、26日帰京。	春城日誌
			9	18	高等商業学校に横井時冬を訪れ商品陳列館	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		10	8		を見学す。 妻ユキと羽田穴守稲荷を参詣。	春城日誌
			10		早稲田大学定款協定について社員（鳩山、高田、天野、市島）が大隈重信を訪れ、校地問題を協議し他日これを大隈家より購入する旨申出る。	春城日誌
			11		亡父直太郎一周忌、高祖父（次郎吉三余正光）五十年の法要を営む。	春城日誌
			23		宗家嫡男亀三郎、精神病のため廃嫡との意向を聞く。	春城日誌
			25		文庫協会主催の珍書展覧会開催。出陳380点余、来会者500名。	春城日誌
			28		横井時冬より故川田剛蔵本の寄託申込みを受ける。	春城日誌
					同日、高田早苗と田原栄の処遇について協議し、早稲田大学高等予科科長に迎えることに決す。	春城日誌
			30		尾崎紅葉危篤の報に接し見舞う。衰弱の甚だしさに気の毒に堪えず辞去。この日絶命の報を31日に受ける。11月2日青山斎場の葬儀に列す、	春城日誌
		11	5		田中穂積の帰朝祝賀会に出席。	春城日誌
			21		早稲田大学社員会、大学幹部給与、商科大学科長人事等を協議。市島は図書館長として年俸1,000円、基金委員月額35円、功労年金300円で年額1,720円となる。	春城日誌
		12	6		越佐会大会において会長に選出される。	春城日誌、越佐会略歴
			21		早稲田中学校校長、坪内逍遙辞任、大隈信常就任。その披露宴に出席。	春城日誌
1904	明治37	1	1	45	早稲田大学の新年祝賀会に出席、大隈家、前島家に年始に行く。	春城日誌
			7		田原栄、高田俊雄と静岡校友大会出席。8日久能山参拝、帰京。	春城日誌
			14		金子馬治、坂本三郎、池田竜一の帰朝祝賀会に出席。	春城日誌
			16		前日大隈重信より東本願寺改革に協力要請があり、この日京都市行き、新門主を管長とし全権を委譲すべきことと説く。19日帰京。	春城日誌
			25		熱海に避寒す。2月9日帰京。この途次大磯に療養中の市島清松を見舞う。	春城日誌
		2	1		早稲田大学から1月25日の評議員会（市島欠）で大学定款改定等の決議内容の連絡。	春城日誌
			10		日露戦争始まる。旅順、仁川の海戦で我軍大勝と記す。	近代史年表、春城日誌
			14		東洋女子学校設立について相談のため、村上専精来訪。	春城日誌
		3	20		越佐会演説会開催、出席。大隈重信、佐藤正少将、下瀬雅允講演。会後茶話会にて市島軍器談を講演。	春城日誌、越佐会沿革

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		4	3		早稲田実業学校第1回卒業式に参列。 長男機、写真研究について佐藤華江への紹介を坪谷善四郎に依頼す。	春城日誌 春城日誌
			7		好晴に乗じて上野に桜花を見、午後、早稲田中学校評議員会に出席。	春城日誌
			10		越佐会の観桜舟遊会、35名参加。満開の墨堤桜花を満喫。	春城日誌、越佐会略歴
			11		妻と2児を連れ、上野、隅田川に花見。	春城日誌
			17		早稲田大学春季陸上競技会を子供達と観る。	春城日誌
			19		かねてより身上について周旋中の坂本三郎が控訴院判事に復職につき挨拶に来る。	春城日誌
			20		早稲田大学図書館にて館務改善、館員分課改正を伝達。夕刻より上野梅川樓での学校事務員慰労会に出席、参会者80名。	春城日誌
			25		東京帝大図書館を訪れ、和田万吉館長と図書分類について協議す。	春城日誌
			28		妻子と新設の東武鉄道に乗り亀戸に遊ぶ。	春城日誌
		5	2		有楽町日本倶楽部で東京大学同窓会に出席。70名参加。市島指名され旧懐談を演説。	春城日誌
			5		青柳篤恒來訪、早稲田清韓協会設立の談をなす。29日発会式に列す。	春城日誌
			20		新潟濁川真島中太郎の洋行を見送りに横浜にゆく。	春城日誌
			30		坪内逍遙、千葉鋳蔵と図書館に同好談話会を設け、図書資料研究を進めることを協議。	春城日誌
		6	10		新潟県選出貴族議員に佐藤伊左衛門（市島徳次郎実弟）が選出される。11日市島は佐藤宛に祝電を発す。	新潟県政党史、春城日誌
			12		第1回同好談話会開催、出席。	春城日誌
			15		波多野精一のドイツ留学送別会に出席。	春城日誌
		7	6		早稲田大学基金管理委員会に出席。	春城日誌
			13		早稲田大学高等予科卒業式に出席、卒業生500余名。	春城日誌
					同日、早稲田大学評議員会に出席、定款改正に伴う新組織。前島密を会長に選出。	春城日誌
			14		帝国図書館に田中稲城を訪い館務について談す。	春城日誌
			15		第21回早稲田大学卒業式に出席。大石正巳の演説あり。	春城日誌
			16		早稲田大学校友大会に出席。大隈重信の演説あり。	春城日誌
			26		早稲田中学校評議員会に出席、寄宿舎存廃問題を議し、他日塾舎新営まで廃止を決定。	春城日誌
		8	5		家族（子女5人、佐久間、和泉等書生）と大森八景園に遊ぶ。	春城日誌
		9	4		日本軍遼東半島を占領。「是れ実に千古之快事」と記す。	春城日誌
			11		商品陳列館のための商品寄贈勧誘文、寄贈	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		10	2		<p>手続の文案を作成す。</p> <p>同日、早稲田大学講師招待会に出席。130名余参加。</p> <p>村上専精発起の東洋女学校創立相談会に出席。開校を急ぐ事を決議す。</p> <p>松平康国より泰山の刻字中「名著大作」の4字を贈らる。装潢後早稲田大学図書館に掲額された。</p> <p>母シゲ帰郷、妻ユキと共に大宮まで送る。</p> <p>早稲田大学秋季水上運動会のため4日間図書館休館。</p> <p>早稲田大学創立記念日で休校。高田早苗宅の職員園遊会に出席。</p> <p>早稲田清韓協会開催、出席。神鞭知常、大隈重信の演説あり。</p> <p>早稲田大学図書館商議委員会開催、館務、購入図書、次年度購入方針を陳べる。</p> <p>東京帝国大学で開催の史料展覧会を観る。</p> <p>甲府校友会へ出席のため、大隈重信、高田早苗、天野為之等と出張。甲府にて地元財界人等250余名の集会に臨み、翌30日昇仙峽を觀、31日帰京。</p>	<p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p>
		11	7		<p>早稲田中学校評議員会に出席。校舎増築を評決す。</p> <p>早稲田大学校友会大会に出席。大隈重信の養鶏演説あり。</p> <p>越佐会開催。来会者40名。坪谷善四郎の日露戦争従軍談あり。</p> <p>文庫協会第2回図書展覧会委員に選出される。</p> <p>同日、早稲田大学社員会に出席。37年度決算を評決、安部磯雄の社会主義に関し、浮田和民の演説について文部省から召喚されたことを高田早苗が報告。</p>	<p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p> <p>春城日誌</p>
		12	7		<p>偕楽園に二水会あり、出席。校友出身全代議士出席。校友を基盤とする保険会社設立の案が提出される。</p>	<p>春城日誌</p>
			11		<p>早稲田大学卒業生三木武吉来訪、身上について相談あり。</p>	<p>春城日誌</p>
			17		<p>弟豊次郎長女下林貞雄と結婚。</p>	<p>春城日誌</p>
			29		<p>新潟西条丹呉家在住の母シゲより隠宅普請の報あり。</p>	<p>春城日誌</p>
1905	38	1	1	46	<p>早稲田大学での新年祝賀会に出席。高田早苗、天野為之等と共に大隈重信、前島密宅へ年始に行く。この日、旅順のロシア軍降伏す。</p>	<p>春城日誌</p>
			11		<p>早稲田大学、早稲田中学、早稲田実業学校学生生徒5,000人旅順陥落を祝す。賀表は市島の立案。</p>	<p>春城日誌</p>
			12		<p>村上専精と佐藤伊左衛門を訪問し、女学校</p>	<p>春城日誌</p>

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
				15	への資金援助を依頼す。 早稲田大学春季校友大会兼旅順祝勝会に出席。	春城日誌
		2	1		早稲田大学図書館商議委員会にて目録編纂法の調査結果を報告、今後の方針を決定。	春城日誌
			2		宗家二男市島清松、療養中のところ鎌倉にて死去の報に接す。享年28歳。4日葬儀。	春城日誌
			16		所蔵の漆器、陶器若干を商品見本として早稲田大学へ寄贈す。	春城日誌
			24		早稲田大学維持委員会に出席。安部磯雄率いる野球部の渡米について等を協議。野球部渡米については大隈信常反対す。	春城日誌
		3	8		早稲田大学基金管理委員会に出席。	春城日誌
			20		清国留学生部設置調査のため、清国に赴く高田早苗、青柳篤恒、松平康国を新橋に見送る。	春城日誌
			23		早稲田大学日露戦争祝勝堤燈行列を挙行、学生生徒5,000名参加し、宮城前まで行進す。	春城日誌
		4	1		帝国図書館にて第2回文庫協会図書展覧会開催。	春城日誌
			12		同日、4日渡米の野球部壮行会に出席。中井敬所に早稲田文庫の蔵書印（銅印にて金沢文庫に倣う）の彫刻を依頼す。	春城日誌 春城日誌
			15		足利学校を訪ねその資料を見学。16日帰京。	春城日誌
		5	4		田口卯吉死去につき子息文太に弔辞を送る。渡米の野球部、スタンフォード大に敗戦の電報あり。	春城日誌 春城日誌
			11		今泉定介、古書保存会について来話。翌12日物集高見、和田万吉を訪れ協議。	春城日誌
			21		弟豊次郎婿下林貞雄、衆議院守衛長に昇進の報、22日賀表を送る。	春城日誌
			24		早稲田実業学校評議員会に出席。	春城日誌
			27		山田一郎危篤の報をうけ大学病院に赴くが既に死去。享年45歳。「人生如朝露」と記す。	春城日誌
			30		早稲田大学越佐会に出席、卒業予定者のための予饗会とする。 山田一郎葬儀。早稲田大学大学総長大隈重信他関係者150名参列。市島等協議し故人のために贖金を募り、記念図書を早稲田大学図書館に寄贈することを議決す。	春城日誌
		6	1		清国出張中の高田早苗より早稲田大学から40名の講師を招聘したいとの現地の要請があり、当惑したが差当り15名をと答え、市島にその準備を依頼し来る。	春城日誌
			3		山田記念図書資金募集発起人を定め了承を求む。	春城日誌
			6		今泉定介と古書保存会について熟談。	春城日誌
			8		岩下清周宅にて早稲田大学及び高等商業学	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					校を後援として生命保険会社設立の件を協定す。鳩山和夫、天野為之、三枝守富等同席。	
		7	15 25		高田早苗等清国より帰国、新橋に出迎える。	春城日誌
			8		高田早苗帰朝歓迎会に出席。	春城日誌
					国書保存会（国書刊行会）評議員会。大隈重信総裁、重野安繹会長。市島、今泉定介が実務担当。	春城日誌
			12		国書刊行会委員（井上頼因、萩野由之、小杉温邨、松井簡次、幸田成行、坪内逍遙）と刊行計画を協議し書目を決定。	春城日誌
			13		早稲田大学基金管理委員会、評議員会に出席。	春城日誌
			15		早稲田大学卒業式に出席。卒業生490余名。初めて大学部の卒業生を出す。	春城日誌
			16		早稲田大学校友会に出席。	春城日誌
			18		東京帝国大学図書館にて文庫協会委員会開催。東京市より諮問された図書館設置案を議し、敷地及び設計を協定す。	春城日誌
			20		金曜会に出席。高田早苗の清国観察談等を聞く。	春城日誌
			30		宗家番頭谷資敬より市島の債務は完済と連絡あり。	春城日誌
		8	1		今泉定介、山沢俊夫と京阪行き。国書刊行会会員募集を目的とする傍ら、早稲田大学の商品陳室資料収集を兼ねる。帰途名古屋に立ち寄り会員を募り、12日帰京。	春城日誌
			27		国書刊行会会員募集のため新潟行き。9月1日在西条の母シゲを訪ねる。4日帰京。	春城日誌
		9	5		日露講和反対の日比谷騒動。6日戒厳令施行。	近代史年表、春城日誌
			11		清国留学生部始業式に出席。大隈重信、長岡護美、清国公使出席。	百年史、春城日誌
			12		妻子と墨堤百花園に遊ぶ。	春城日誌
			17		父直太郎の忌日より母よりの開書き北堂夜話を筆す。	北堂夜話
			28		曾祖母フエ、父直太郎の法事を営む。	春城日誌
			30		早稲田大学講師招待会に出席。	春城日誌
		10	12		漢詩人野口寧斎蔵書5,000冊を早稲田大学図書館に寄託（5年間）される。後、購入。	春城日誌
			14		田中光顕より喪服小記子本義（礼記子本疏義）の寄贈を受ける。後、国宝に指定される。	春城日誌
			22		早稲田大学越佐会遠足会に参加、日黒恵比寿ビル社内で宴会。一場の演説をする。	春城日誌、越佐会略歴
			27		国書刊行会会員募集順調に進み、総数3,000名に達する見通しと記す。	春城日誌
		11	1		薄田貞敬より山田一郎伝の校閲を頼まれる。	春城日誌
			10		国書刊行会入会者3,700人以上の見込、発	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					行部数は4,000部を準備が必要と計算。 住宅購入物件、土地150坪の契約を進めるが、 12月に至り破談となる。	春城日誌
					実業之日本社屋新築につき増田義一の園遊 会に出席。参会者300名。	春城日誌
					大橋図書館での文庫協会例会に出席。	春城日誌
					早稲田大学基金管理委員会に出席。	春城日誌
					第3回紅葉山人の祭典に出席。夕刻、越佐 会例会に出席。	春城日誌
					早稲田大学出版部より純益金配当300円領 取。	春城日誌
1906	39	1	1	47	早稲田大学の新年祝賀会に出席、大隈家、 前島家に年始に行く。高田早苗、田原栄 を訪問。	春城日誌
					長男機の徴兵適齢の通牒を受ける。	春城日誌
					今泉定介と国書刊行会の今後について市島 の見解を示し意見交わす。	春城日誌
					芝紅葉館にての清国大使随員銭恂、早稲田 大学卒業の清国留学生との懇談会に出席。	春城日誌
					東京帝国大学での文庫協会委員会に出席、 規約改正を協議するが未了。	春城日誌
		2	2		東京帝国大学での文庫協会委員会に出席、 引き続き協会規則改正を議す。	春城日誌
					弟豊次郎長二女、鎌田松造との結婚式に列 す。	春城日誌
		3	7		6日開催の文庫協会臨時総会（市島欠席） で新規約に基づき市島の評議員選任通知 を受ける。	春城日誌
					同日、眼科にて眼の腫物を切除。	春城日誌
					今泉定介来訪、国書刊行会を退く挨拶を受 ける。18日編集委員と会し善後策を協議 す。	春城日誌
					東京帝国大学図書館にて開催の文庫協会評 議員会に出席。全国図書館大会を協議す。	春城日誌
					帝国図書館竣工式（開館式）に列す。	春城日誌、近代史年表
					東京帝国大学図書館に全国図書館員大会開 催。市島、開会の趣旨を演述。	春城日誌
					同日、市島直治、後藤新平媒酌にて賀田金 三郎家に入婿。	春城日誌
		4	5		子供と上野に花見。団子坂で盆栽を買求め 浅草を徘徊して帰る。	春城日誌
					早稲田中学校創立10周年記念会、第8回卒 業式に臨席。	春城日誌
					小金井に家族、書生、賀田直治夫婦と花見。	春城日誌
					早稲田中学校社員会に出席、決算予算を議 決す。	春城日誌
					横井時冬の葬儀に列す。	春城日誌
		5	7		静養目的で家族と平塚行き。9日帰宅、10 日再訪。12日帰宅。	春城日誌
					越佐会開催、本年卒業生のための予餞会を	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			25		兼ねる。鳥村抱月の講演あり。 新潟学校時代同窓会に出席。大竹貫一、吉田東伍、弟豊次郎等13名。	春城日誌
			27		岡山兼吉13年忌法要に列す。また、山田一郎の法要と追悼会を営む。参会者25名。	春城日誌
		6	19		妻ユキをして病床の弟豊次郎を見舞う。	
			24		早稲田大学卒業生、特に商科卒業生の就職斡旋のため京阪行き。7月5日帰京。	春城日誌
		7	9		早稲田大学社員会に出席。高田早苗より年度報告があり、重要事項を協議す。	春城日誌
			11		高野山普門院へ父の命日訂正書状を送る。	春城日誌
			15		早稲田大学校友倶楽部設立計画、実行委員に市島等10名を選出。	百年史
			16		早稲田大学商品陳列所について池本純吉と協議す。	春城日誌
			18		早稲田大学社員会に出席。出版部、清国留学生寄宿舎の件を議決す。出版部を大学から切り離し、高田早苗等の匿名組合組織になす。市島、大隈信常等組合員となる。	春城日誌、出版部100年
			21		四女ミツと鎌倉行き。滞在中の重野安禰を訪ね国書刊行会評議員会の事を協議す。22日鎌倉、長谷に遊び、23日帰京。	春城日誌
			26		国書刊行会評議員会開催、市島より諸般の報告をなし、次年度の出版担当委員を指名す。	春城日誌
		8	29		商品陳列館設計について池本純吉と協議す。栗本庸勝、田代亮介来訪、早稲田大学に医学部設置の時期について談す。	春城日誌 春城日誌
			16		田原栄と平塚に高田早苗別荘を訪問。18日帰京。	春城日誌
			20		吉田東伍に博士号を受けることを勧める。吉田は明治42年に文学博士号を受ける。	春城日誌、吉田東伍年譜
			26		静岡県夏期校友会出席のため清水へ赴く。大会後、興津、修善寺等を巡り、29日帰京。	春城日誌
		9	2		田代亮介を訪い、同仁会、早稲田大学医学部について談す。	春城日誌
			28		保険会社（日清生命保険）創立相談会に出席。	春城日誌
		10	4		早稲田大学商品陳列所建設について技師と協議す。	春城日誌
			7		大隈邸にて国書刊行会1周年記念園遊会開催。来会者70余名。市島1カ年の業務を報告。	春城日誌
			14		向島札幌ビール会社で越佐会臨時大会を開催、出席。参会者50余名。	春城日誌
			22		国書刊行会の用で京阪行き。京都の風景撮影のため長男機を伴う。31日帰京。	春城日誌
			31		東京市長尾崎行雄より市立図書館評議員の	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		11	5		囑託を受ける。 早稲田消費組合の発起をなす。26日創立会 開催、出席。	春城日誌
			10		弟豊次郎鎌倉転居静養と決す。	春城日誌
			14		早稲田大学越佐会秋季大会に出席。市島講 演。	越佐会略歴
			17		府下落合村に土地を購入、一部分の登記を 済ます。	春城日誌
			20		日比谷図書館評議員会に出席。和田万吉東 京帝大、田中稲城帝国、市島早稲田大学 各図書館長の他肥塚竜等6名。尾崎行雄 市長の挨拶あり。	春城日誌 春城日誌
		12	3		弟豊次郎、鎌倉より帰京、来訪す。病状漸 く軽快の模様と記す。	春城日誌
			4		築地香雪軒での東京大学明治9年同窓会に 出席。高田早苗、天野為之等20名参加。	春城日誌
			7		弟豊次郎来訪、家族と共に再度鎌倉に静養 の旨を告げる。10日鎌倉着の報に接す。	春城日誌
			8		東京帝国大学構内での文庫協会委員会に出 席。基金募集、会報発行等を議決す。	春城日誌
			13		長男機、新潟長岡の石塚三郎の元に行く。 写真修行の目的、当地で越年の予定。	春城日誌
			14		発熱、田代亮介の診察を請う。インフルエ ンザ罹患と診断。19日小康を得る。	春城日誌
1907	40	1	1	48	年初に関らず病後であることから、恒例の 早稲田大学新年会には赴かず家居。年始 を廃す。	春城日誌
			12		熱海行に行き、樋口屋宿す。16日伊藤博文 来泊にて部屋替えを求められる。2月1 日鎌倉に弟豊次郎を見舞い鎌倉三橋に宿 す。2日帰京。	春城日誌 春城日誌
			26		日清生命保険会社創立総会。	高田年譜
			30		早稲田大学春季校友大会にて、大隈重信の 古希、創立25周年を記念し大隈の銅像建 設を議決し、委員会を設け委員長に市島 を選出。	百年史
		2	1		日清印刷会社設立趣意書に发起人として名 を連ねる。	日清印刷沿革
			4		早稲田大学社員会に出席。月謝増額、師範 部を大学部とする件議決す。また、高田 早苗の学監辞任の申出あり。	春城日誌
			6		早稲田大学出版部例会に出席。出版部業務 の他、高田学監辞任の件の談あり。大隈 重信、留任を要請、高田は否認す。又、 学校用地を大隈に寄付を求める。大隈は 抵当がなくなり次第寄付もあるとのこと と伝える。	春城日誌
			10		鳩山校長を坪内逍遙、田原栄と訪問、高田 学監更迭問題を凝議す。	春城日誌
			12		坪内、塩沢昌貞、坂本三郎、島村抱月、金	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					子馬治、田中唯一郎と学監更迭問題を協議し、現校長を罷め学監をして校長とすべしと決す。	
				14	高田早苗より有名無実の校長を排すべしとの書簡を受ける。直ちに坪内逍遙と協議す。	春城日誌
				15	坪内逍遙と天野為之に会い、天野より鳩山校長に辞任を求め、天野を校長にする内議なる。	春城日誌
				19	4月設立の日清印刷会社へ100株申込。	春城日誌
				23	天野為之と協議し、鳩山校長の11月の任期満了をもって退職を天野より勧告、後任に天野をあて、後高田を校長とすることに議決し、これを高田に報告す。	春城日誌
		3	3		日清生命保険会社設立に市島の貢献に対し、専務取締役池田竜一より謝状と物品を齎し来る。	春城日誌
					同日天野為之長女の結婚披露宴あり、市島病気につき欠席す。	春城日誌
				5	天野為之来訪、校長、学監問題を談ず。	春城日誌
				15	図書館閲覧者の増加に伴い、施設の狭隘、盗難事件頻発を歎ず。	春城日誌
				20	昨日の日本文庫協会会頭選挙の結果、市島が当選の報を受ける。	
				27	坪内逍遙、田原栄と大隈重信と面し、高田の留任勧告を求め、鳩山校長の更迭を進言す。	春城日誌
				28	大隈重信臨席の上、高田、坪内、天野、田原と会議を持ち、鳩山校長に辞任勧告をなすことを議決す。又、高田留任を求める。高田、諾否を保留。	春城日誌 春城日誌
		4	4		早稲田大学維持員会に出席。大隈総長、高田学長、維持員を15名にすることを議決。早稲田印刷会社（日清印刷）創立総会に出席。	春城日誌
				6	早稲田大学評議員会に出席。大隈重信を総裁推戴、8名の新維持員選任。	春城日誌
				17	大隈重信早稲田大学総長推戴式。	春城日誌
				27	越佐会、7月卒業の学生への予饗会に出席。	春城日誌
				30	芝紅葉館に大隈総長、高田学長を迎え鳩山校長を送る校友大会に出席、130名参加。	春城日誌
		5	7		大隈総長、高田学長と静岡県校友大会に出席。8日浜松での校友歓迎会、名古屋へ行き東海4県連合校友会に列す。9日大隈総長市内各学校を訪問、地元財界人等との懇親会に臨み帰京。	春城日誌
				10	市島は大阪に赴く。大阪にて大隈重信銅像建設基金募集、商品標本蒐集活動を行い、15日帰京。	春城日誌
		6	9		成田図書館竣工式に出席。白鳥庫吉等、市	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					鳥の演説あり。	春城日誌
			11		長男機、神経を病み、入沢達吉の診断を受ける。	春城日誌
					同日、早稲田大学維持委員会に出席。海外留学生の件、副幹事を置く件を決す。	春城日誌
			19		高田早苗を貴族院議員に推荐する件で石渡敏一書記官長を訪ねる。	春城日誌
			21		日本女子大学に招かれ、始めて同校を訪問す。	春城日誌
			22		坪内逍遙より饗庭篁村所蔵の滝沢馬琴草稿手沢本約200冊を譲渡する件につき談あり。25日饗庭より馬琴資料届く。「自筆本多く珍書措かず」と記す。	春城日誌
		7	1		早稲田大学維持委員会に出席。予決算を議決。	春城日誌
			3		早稲田大学評議員会に出席。	春城日誌
			5		第24回早稲田大学卒業式に出席。卒業生800余名。大隈総長の演説あり。	春城日誌
			6		芝紅葉館での校友大会に出席。	春城日誌
			9		富山房坂本嘉治馬來訪、地名辞書について吉田東伍との契約事項を協議す。	春城日誌
			14		坪井九馬三を訪ね、吉田東伍を博士となす事につき打合せる。	春城日誌
			15		文庫協会委員会に出席、大会開催、機関誌発行に就いて協議す。	春城日誌
			19		弟豊次郎の病氣見舞いに母シゲ上京。8月13日新潟西条へ帰る。	春城日誌
			28		佐渡での新潟校友会出席のため新潟行き。長岡石塚二郎方へ赴く長男機を伴う。8月1日相川にて新潟県定時校友会に臨む。佐渡各地で講話会を開き、5日帰京。	春城日誌
		8	14		宗家徳次郎の招きで金沢別邸へ行く。三女スミ、四女ミツ同伴、平塚に1泊し、16日金沢別邸着。18日茅ヶ崎に高田早苗を訪れ21日まで滞在、22日帰京。	春城日誌
		9	4		長女シズ一昨日より帰宅せず。この日未明弟豊次郎死去。6日葬儀。	春城日誌
			7		長女シズ、新潟安田旗野蓑織方に在りとの通報あり。	春城日誌
			10		吉田東伍同伴、大隈重信を訪い、地名辞書の序文を請う。	春城日誌
			16		早稲田大学社員会に出席。10月に予定の創立25周年記念祝典について協議す。	春城日誌
			18		和田万吉等と文部省専門学務局長を訪れ文庫協会建議（図書館講習会開催）をなし、予算化を含め諒承を得る。又、次官を訪ね来月開催の全国図書館大会への大臣、次官の出席を要請す。	春城日誌
		10	1		和泉文三と長女シズの件で旗野蓑織、佐久間鉄雄に質すことす。	春城日誌
					同日、新潟濁川叔母真島らく（亡父直太郎	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			3		妹) 死去の報に接す。 叔母の葬儀のため新潟行き。5日葬儀。地名辞書成功祝賀会を6日午後開催の予定のところ間に合わぬ旨発電。7日帰京。明治天皇生母中山慶子死去を悼み地名辞書祝賀会を延期と知る。	春城日誌
			15		大日本地名辞書成功祝賀会を上野精養軒で開催。友人総代前島密挨拶、大隈重信、三宅雪嶺、重野安繹等の祝辞演説、著者吉田東伍の挨拶、志賀重昂の演説等あり。参会者110名余。「創始の際に余の微力を致したる所なり。十三年の星霜を積む…余、中心の愉快、他人の忖度すべからざるものあり」と記す。	春城日誌
			18		図書館雑誌創刊号出来。	春城日誌
			19		日本文庫協会大会を帝国図書館で開催。市島は会長として挨拶。文部大臣祝辞(代読)、沢柳次官、徳富蘇峰等の演説あり。関西文庫協会との交流を図ることを議決す。	春城日誌
			20		早稲田大学25周年祝典を挙行。大隈重信銅像(小倉総次郎作)除幕式に市島は建設委員長として挨拶す。式典には小松原文相祝辞、首相祝辞(代読)、各国公使の演説、朝鮮総督伊藤博文の祝電披露、高田学長の名で市島、田中唯一郎、三枝守富に記念品贈呈がある。又、図書館において図書十万巻記念展覧会開催(20、21日)。	百年史、春城日誌、 図書館史、高田年譜
					同日、早稲田大学基金募集達成感謝状を受ける。	愧存経歴
			21		校友大会にて大隈、高田等と早稲田大学功労者として賓客として遇せられ謝辞と金杯を受く。	春城日誌
			22		関西においての創立記念行事準備のため京阪へ出張。26日大隈夫妻京都着。27日大阪ホテルで関西校友大会開催、参会者150名余。大隈、市島の演説あり。大阪での講演会及び地元財界人との交流の後、11月3日帰京。「祝典これにて終了…心身を労する幾んど二ヶ月……」と記す。	春城日誌
		11	6		長女シズを和泉文三養女とし、佐久間鉄雄に嫁すこととする。	春城日誌
			8		大隈邸親菊会に子女と共に赴く。	春城日誌
			9		大隈邸での同仁会園遊会に出席。	春城日誌
			10		高田学長邸の早稲田大学職員慰労会に出席。	春城日誌
			18		大隈重信口述開国五十年史完結披露宴に出席。	春城日誌
			19		築地香雪軒での東京大学明治9年同窓会に出席。「三十年前の旧友二十名会合す」	春城日誌

市島謙吉（春城）年譜（稿）

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			25		と記す。 文芸協会試演会が本郷座で開催。この収益を早稲田大学図書館へ寄付される。	春城日誌、図書館史
		12	7		早稲田大学維持委員会に出席。医学部、理工学部設置の案を議決す。	春城日誌
			10		浜村蔵六に委嘱の早稲田文庫の銅印出来。	春城日誌
			13		亡叔父勇五郎未亡人神経を病むとの報あり。	春城日誌
			22		早稲田大学師範部に図書館学科新設につき和田万吉等と協議す。	春城日誌
			26		高田早苗、田原栄と箱根塔ノ沢に合宿し、早稲田大学第2期発展計画（医科、理工科設置等）を協議し計画実現のための募金150万円と定めて29日帰京。	春城日誌
1908	41	1	1	49	忌中につき年賀を廃す。	春城日誌
			3		金子馬治と同行、甲府に赴き校友大会に出席。4日帰京。	春城日誌
			13		早稲田大学維持委員会に出席。医科、理工科設置について議決す。	春城日誌
			26		早稲田大学維持委員会に出席。大隈総長寄贈の学校敷地と新購の土地を併せ財団法人とする件、鳩山前校長を維持員より除く事を議決。	春城日誌
			27		早稲田大学社団法人を解散し財団法人となすにつき、高田学長、天野為之、市島精算人とす。	春城日誌
		2	2		早稲田大学越佐会沿革誌の稿を修む。11日校了し印刷に托す。	春城日誌
			9		小野梓23年法要を西本願寺に営む。市島遇々病にあり不参加。	春城日誌、小野梓年譜
			12		日本文庫協会改正規則草案を和田万吉へ郵送す。	春城日誌
			22		日本文庫協会評議員会開催、規則の修正を協議す。	春城日誌
			23		神戸にて医師開業の小野安子（小野梓遺児）に神戸新聞等への紹介状を郵送す。	春城日誌
			25		二男昂神経を病む。28日学業不能との診断で早稲田中学校退学す。	春城日誌
			27		早稲田大学維持委員会に出席。新財団法人の維持員15名、基金募集専務委員を指名す。市島双方に選任される。	春城日誌
		3	4		府下落合村に1,700坪の土地を購入と決す。代金14,000円。	春城日誌
			15		早稲田大学越佐会創立25周年記念演説会開催。会場早稲田大学図書館楼上。大隈総長、竹越与三郎、増田義一、建部逯吾、市島演説の後、大隈邸にて宴会。参会者120名、未曾有の盛会。	春城日誌
			20		長男機、徴兵検査のため新潟へ行く。	春城日誌
			29		日本文庫協会総会開催、規約改正と会名を日本図書館協会となす事を議決。役員改	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		4	3		選に伴い市島会長に再選される。 大日本文明協会創設。会長大隈重信。後に市島が理事長就任。	百年史
			4		早稲田印刷会社（日清印刷）臨時株主総会開催、1株2円50銭と議決。	春城日誌
			26		大隈重信に随行し足利に行く。清国公使李家駒等同行。足利公園での歓迎会等あり。27日足利学校見学等の後帰京。	春城日誌
		5	2		同日、長男機、徴兵乙種編入との報あり。二男昂を逗子開成中学寄宿舎へ入れる。又「下谷の楽器余の手に帰す。近頃の一快事也」と記す。	春城日誌 春城日誌
			5		早稲田大学へ皇室より3万円の下賜金あり。	春城日誌、百年史
			9		早稲田大学基金募集専務委員会、維持委員会に出席。下賜金の報告を受ける。	春城日誌
			24		東京音楽学校において早稲田大学図書館資金募集のための音楽会開催。大隈総長等800名余来会。	春城日誌
		6	15		早稲田大学第2期発展計画の基金募集専務委員会出席。募金方法を協議す。	春城日誌
			17		高田学長と川上眉山葬儀に臨み、帰路早稲田大学基金募集につき談あり。市島、賛助員制度を提示し規定草案を作成を約す。14日校費賛助員の推薦状等につき協議す。	春城日誌
		7	10		早稲田大学第2期発展計画基金募集について大隈総長の親書を新潟県内要人に送付す。	春城日誌
			15		鶴生生麦の宗家徳次郎別荘訪問、新潟行についての助言を得る。国府津に建築中の大隈重信別荘を訪れて帰京。	春城日誌
			17		高田早苗、吉田東伍と早稲田大学第2期発展計画基金募集のため新潟行き。18日長岡にて新潟校友会、45名参会。新発田、村上、新潟、柏崎、高田に募金勧誘活動をし、8月4日帰京。8日この間の経費1,050円を大学経理へ提出。	春城日誌
		8	17		子女と日光に遊ぶ。19日帰京。	春城日誌
			28		茅ヶ崎に高田早苗を訪う。大学の重要案件を協議す。基金部長を大隈信常に代わり市島とすることを内決す。	春城日誌
		9	1		坪内逍遙を訪ね、早稲田文学、早稲田学報、外交時報を合同し、大学の機関誌とすることを協議す。この結果、早稲田学報をもって校友会機関誌とすることとなる。	春城日誌、百年史
			5		高田学長と静岡行き。6日浜松楽器製造会社見学、校友と会談。7日大隈重信代理として高田と興津に療養中の井上毅を見舞う。遇々帰京の列車に山県有朋と同乗す。	春城日誌
			14		早稲田大学維持委員会において市島の基金部	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		10	1		長を承認。 青柳篤恒の清国行を見送る。高田学長と鍋島直大を訪ね早稲田大学校賓となることを委嘱し、基金募集の件を話す。	春城日誌
			10		田代亮介と同仁会前途を云々し、早稲田大学医科構想との合体を議す。	春城日誌
			13		高田学長、吉田東伍と同行、福島白河での松平楽翁贈位祝典に列す。14日帰京。	春城日誌
		11	4		桂太郎首相を高田学長と訪問し、早稲田大学基金応募を求め即500円の寄付を得る。	春城日誌
			6		早稲田大学図書館において滝沢馬琴60年忌辰会、消息展覧会を開催す。翌7日までの会期に2,000名の来館者あり。	春城日誌
			16		日比谷図書館開館式に列し、日本図書館協会会長として祝辞を述べる。	春城日誌
			22		日本図書館協会大会を南葵文庫にて開催。市島会長、会務報告と講演をなす。	春城日誌
			23		大隈総長邸の観菊会、学長に代わり一場の演説をなす。午後、慶応義塾図書館での日本図書館協会懇親会に臨む。市島の慶応を訪れるのはこれが始めてと記す。鎌田塾長の演説などある。参加者70名余。	春城日誌
			28		早稲田大学維持委員会に出席。理工科設備、校資賛助員、基金募集経過等を協議。	春城日誌
			29		白眼会（前島密を囲む会）第1回開催。参会者23名。毎春秋に開催とする。	春城日誌
			30		基金募集のため主要実業人を会す。渋沢栄一、安田善次郎、豊川良平、森村市左衛門、前島密、村井吉兵衛等。	春城日誌
		12	3		早稲田学報改革号発行について田中唯一郎、島村抱月等と協議。	春城日誌
					日本図書館協会特別委員会にて建議案（図書館設立に関する準則発布、標準目録編纂への政府補助、寺社等保存の貴重書目録編纂）を協議し、引き続き評議員会で決議す。	春城日誌
			5		基金募集のため伏見宮、閑院宮等宮家を歴訪。	春城日誌
			12		早稲田大学理工科商議員会に出席。設備等緊要の件を評決す。	春城日誌
					出版部より今期配当650円領掌。	
			14		三省堂斎藤精輔来訪、百科辞典出版の礼を述べ辞典を贈られる。	春城日誌
			16		和田万吉同伴、文部省福原局長を訪ね、図書館協会建議3件採用を申請す。	春城日誌
			18		伏見宮邸に赴き、早稲田大学へ各宮家から1,000円の寄贈を伝えられる。	春城日誌
			22		足利町より講演依頼を受け、吉田東伍と赴き、釈奠を町祭となす件等の演説を行い、23日鑊阿寺等訪問資料見学して帰京。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
1909	42	1	1	50	早稲田大学における賀詞交歓会に出席。病氣以来禁酒で「長座に堪えず」と記す。	春城日誌
			10		図書館員小林堅三と図書館無休主義を協議す。	春城日誌
		2	4	23	書簡研究会発会式を早稲田大学大講堂で開く。市島等演説。	春城日誌
				30	早稲田大学校友大会に出席。参加者8、90名。	春城日誌
		3	10	11	下村正太郎を大丸呉服店に訪ね、下村家々政、呉服店営業方針について意見を述べる。5日同件に付高田早苗と大隈重信と協議し、6日下村同伴、大隈に面会する。	春城日誌
				16	早稲田大学において憲法発布20周年記念祝典、7分科会で討論会開催、市島第1会場の司会。	春城日誌
		4	2	25	早稲田大学出身両院議員懇親会に出席。	春城日誌
				27	書簡研究会に出席、一場の演説をなす。	春城日誌
		5	8	10	早稲田大学出版部の講師招待会に出席。	春城日誌
				16	憲政本党、非政友会各派との合同を巡って対立の件で高田早苗と協議。新潟県代議士間の調停を依頼される。	春城日誌、近代史年表
		6	10	18	日露戦役中、海軍が拿捕のロシア語図書寄贈申込。5月に受入る。	春城日誌
				25	国書刊行会第1期始末書を校訂す。	春城日誌
		7	12	26	日本図書館協会例会開催。和漢書目編纂規則修正方針を協議す。	春城日誌
				4	坪内逍遙の演劇研究所設置計画について、増田義一等を訪問、資金援助を得る。3日高田早苗と同件を協議。4日坪内来訪、市島に謝辞を述べる。	春城日誌
		8	16	16	坪内逍遙のシェイクスピア訳を富山房と早稲田大学出版部の共同出版とすることを協議。	春城日誌
				22	同日、日本図書館協会目録委員会開催、和漢図書目録編纂法を議すが未了。	春城日誌
		9	25	25	大隈重信邸にて早稲田大学基金募集のため実業家会合を持つ。服部金太郎、根津嘉一郎、大橋新太郎等11名参加。	春城日誌
				30	御茶ノ水聖堂で開会の孔子祭典会に出席、同時開催の先哲遺墨陳列を展覧す。	春城日誌
		10	30	30	京阪行き。5月1日新設の京都図書館での日本図書館協会大会に出席。市島、会長として開会挨拶。6日帰京。滞在中下村正太郎と大丸呉服店経営問題を協議す。	春城日誌
				5	8	硯友社25周年記念会に出席、尾崎紅葉について講演。早稲田大学越佐会に出席。
11	11	11	新潟長岡石塚三郎方に滞在の長男機の病気を見舞う。13日機同伴帰京。	春城日誌		
		17	四国香川県に出張。早稲田大学基金募集活動の外、松平頼寿家の書画骨董を見、栗	春城日誌		

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		6	5		林公園を見物。30日帰京。 国書刊行会第2期計画について赤堀又次郎と話す。	春城日誌
			14		新潟新聞1万号を受取る。市島の懐旧談1頁掲載。	春城日誌
			25		藤根常吉（同仁医学校理事）来訪、早稲田大学医学部経営について話す。	春城日誌
		7	2		早稲田大学維持員会にて市島は理事に選任される。	春城日誌
			5		早稲田大学第26回卒業式。市島、校友の心得につき演説。清国留学生を含め900名卒業。	春城日誌
			24		愛知、三重に基金募集のため出張す。8月1日帰京。勘当した長女シズが台湾総督府役人重栖健に6月23日に嫁した旨、在台湾の賀田直治より報告を受ける。	春城日誌
		8	5		同日、吉田東伍文学博士となる。 清国農科大学監督羅振玉早稲田大学へ来校。市島応接、礼記（後国宝）等展覧に供す。	吉田東伍年譜 春城日誌
			6		那須塩原に子女と避暑に赴く。在塩原の有賀長雄、関根正直等と交流し、11日帰京。	春城日誌
			18		新潟県同人の催せる建部逕吾外遊壮行会に出席。	春城日誌
		9	10		母シゲ上京。亡弟豊次郎妻の離縁を告げる。18日帰県。	春城日誌
			30		早稲田大学出版部主幹に就任。	春城日誌、出版部百年史
		10	20		亡弟豊次郎遺児上京。 高田早苗宅にて早稲田大学職員慰労会に出席。	春城日誌 春城日誌
			26		伊藤博文、ハルビンにて死去の報に接す。	春城日誌
		11	2		東京市立図書館評議員に委嘱される。 東京市長より市設図書館評議員満期につき謝状を贈らる。	愧存経歴 春城日誌
			6		亡弟豊次郎遺児欣二、新潟県柿崎警察署より引取を求められる。9日母親しほ同伴出京。	春城日誌
		12	1		日本図書館協会大会開催。評議員半数改選、目録編集規則を協議す。来会者50名。	春城日誌
			22		日清印刷相談役に選任される。	春城日誌、日清印刷沿革
1910	43	1	1	51	早稲田大学新年賀詞交歓会に出席。大隈、前島家に年始に行く。	春城日誌
			4		熱海行き。樋口屋に逗留。在熱海坪内逍遙と交遊。9日帰京。	春城日誌
			12		早稲田大学および出版部よりの年俸を確認。理事1,300円、図書館長900円、出版部主幹600円合計2,800円。	春城日誌
			23		高田早苗、坪内逍遙と早稲田大学校外教育部発足について協議す。	春城日誌
			26		名古屋通俗図書館より、名誉会員推挙の連絡を受ける。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			30		早稲田大学春季校友大会に出席。	春城日誌
		2	2		日本図書館協会評議員会に出席。図書編集規則等を議す。	春城日誌
			5		早稲田大学維持委員会に出席。皇室からの下賜金をもって恩賜館建設を議決す。	春城日誌
			10		早稲田大学出身両院議員懇話会開催、元議員として招かれ出席。	春城日誌
		3	2		北越新報に趣味談叢の連載始まる。	春城日誌
			23		京阪行き。早稲田大学基金募集のため大阪、京都、神戸で勧誘活動を行い18日帰京。	春城日誌
			29		京阪行き。早稲田大学基金募集、校外教育部、出版部事業拡張活動のため京都、大阪、神戸で活動。この間基金募集確定額3万円余となる。傍ら大丸呉服店経営刷新に関与する。4月17日帰京。	春城日誌
		5	2		日本図書館協会で和田万吉帰朝祝賀会に出席。徳川頼倫他50名参会す。	春城日誌
			19		京阪行き。大隈重信の先乗りとして各地に周旋す。6日大隈着京。8日大隈夫妻に同行、比叡山に参詣。9日大阪ホテルにて近畿校友大会、来会者150名。14日大隈帰京。29日市島帰京。	春城日誌
			22		二男昂徴兵検査結果丙種不合格との報。ハレー彗星を見る。	春城日誌
		6	4		早稲田大学図書館にて能楽源流展を開催。5日大講堂において記念講演会開催、吉田東伍、芳賀矢一等講演。来会者1,000名余。	春城日誌
			6		長男機腹膜炎で回復の見込みなしと告げられる。	春城日誌
			14		京阪行き。基金募集のため各地で活動す。又、商科卒業生の就職斡旋を田中穂積と行う。29日帰京。今回の基金募集は6,000円。「三月以来大阪を攻め吾れも疲れたり、人も疲れたらん。帰らん哉」と募金活動の心労を記す。	春城日誌
		7	1		早稲田大学維持委員会に出席。仮決算、次年度予算を議決。不足額12,000円。	春城日誌
			5		早稲田大学第27回卒業式に出席。卒業生850名余。	春城日誌
			6		早稲田大学校友大会に出席。	春城日誌
			9		岡山梧堂(兼吉)17回忌法要に出席。岡山同窓会主催追福会を開催し、梧堂追懷録を頒つ。	春城日誌
			12		清国公使館の午餐会に大隈重信外早稲田大学幹部教職員20名が招待される。	春城日誌
			20		田中稲城、和田万吉等と文部省に赴き図書標準目録編纂につき諮問を受ける。21日再訪、引続き協議をなす。	春城日誌
			24		早稲田大学出版部に開催の夏期講習会に臨	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		8	11		み講演。 青柳篤恒来訪、早稲田大学の関西校外教育について報告す。	春城日誌
			15		長男機死去。享年25歳。18日葬儀。	春城日誌
			20		在台湾重植健康シズ（市島長女）病気に付き、勘当を解き感謝を与えて貰いたいとの報に接す。	春城日誌
		9	3		早稲田大学維持委員会に出席。池袋付近の学校運動場用地1万坪購入を決す。	春城日誌
			5		二男昂の音楽学校分教場選科入学の件で湯原校長に書を投ず。	春城日誌
			8		日清印刷重役会に出席。8月中の利益金約3,000円、成績極めて可と記す。	春城日誌
			20		江部淳夫来訪、文部省から熊本高校教授内示につき相談。江部、25日熊本へ赴任。	春城日誌
			27		前島密の白眼会開催。市島幹事として斡旋す。	春城日誌
		10	2		早稲田大学出版部と博文館との出版販売共同の件を打ち合わせる。	春城日誌
			11		亡弟豊次郎遺児三郎を山口幾太の養子とする。	春城日誌
			17		大隈重信に随行、前橋での校友大会に出席す。	春城日誌
			22		下村正太郎の要請で大丸呉服店経営改革協議のため京都に行く。25日帰京。	春城日誌
			26		長男機遺骨埋葬のため新潟行き。二男昂同伴。29日菩提寺五十公野浄念寺に埋葬、県内の知友と会合する等して11月1日帰京、	春城日誌
		11	3		日本図書館協会大会開催。来会者80名。市島会長任期満了、次期会長渡辺又次郎を選出。	春城日誌
			12		大隈邸にて早稲田大学秋季校友大会開催、市島演説す。	春城日誌
			19		下村正太郎の請いにより家政整理の相談のため京都市行き。21日下村家家蔵品の売却に立会。又、所蔵書籍の一部を早稲田大学へ寄贈される。23日大阪に行き知友と会し27日帰京。	春城日誌
		12	13		下村正太郎寄贈図書早稲田大学図書館に到達。後下村文庫となる。	春城日誌、図書館史
			24		東京市より市立図書館優待券を贈らる。	春城日誌
			31		歳末雑記に「郷里の新聞に趣味談を載することを始め」と記す。	春城日誌
1911	44	1	1	52	長男死去につき年賀欠礼。	春城日誌
			4		三女スミ、四女ミツと熱海行き。滞在中の高田早苗、坪内逍遙等と交遊。7日帰京。	春城日誌
			11		早稲田大学出版部新年会に出席。	春城日誌
			12		北越新報に双魚堂雑話を連載す。	春城日誌
			18		早稲田大学出版部において講義録、中学講	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
				23	義について協議し、通俗二十一史出版趣意書を口授筆記せしむ。吉田東伍を訪問、逆叙日本史の事を協議す。 安田善之助宅での欣赏到会に出席。幸田露伴、林若樹、饗庭篁村等各自珍本を示し玩賞す。	春城日誌
		2	26		新潟新聞記者と蟹泡録掲載の材料を口授す。	春城日誌
			2		早稲田大学出版部社員と高等国民廃刊、早稲田講演拡張について協議す。	春城日誌
			17		日本図書館協会評議員会に出席。会長退任後、市島は評議員となる。	春城日誌
			18		高田早苗宅にて坪内逍遙、田原栄と会し、高田学長任期満了後の対応を協議す。	春城日誌
			26		耳朶の脂肪瘤を切開し取り除く。 この月、早稲田大学越佐会倶楽部を市島等の出資で下戸塚に設立、会員の集会所とする。	春城日誌 越佐会略歴
		3	10		孔子祭典会臨時委員を断る。	春城日誌
			12		北越新報のため双魚堂録話を口授筆記せしむ。	春城日誌
			22		京阪行き。4月11日まで早稲田大学基金募集、文芸協会拡張の件で活動す。	春城日誌
			30		同仁会（大隈重信会長）評議員に囑任される。	愧存経歴
		4	13		岡山行き。大原孫三郎、野崎武吉郎を訪れ基金募集協力を要請し、17日帰京。	春城日誌
			20		新築の早稲田大学恩賜館を内覧。	春城日誌
			26		京阪行き。5月6日まで京都大阪にて基金募集活動を行う。	春城日誌
		5	7		岡山に赴き、同断。11日大阪に戻る。13日大阪の敷田嘉一郎より早稲田大学商品陳列館のため15,000円の寄付決定と聞く。後日これは実現せず。	春城日誌
			14		大隈重信来阪。各地より大隈招待の申込み頻出、その周旋に苦戦。大隈17日神戸、18日倉敷、津山、岡山に同行す。20日京都に戻る。大隈の東西本願寺を訪問に随行。22日大隈帰京を見送る。23日帰京。	春城日誌
			25		帝国劇場にて坪内逍遙のハムレット観劇。	春城日誌
			30		早稲田大学維持委員会に出席。定款改正し理事を3名とし、高田、市島と天野為之を充てる。	春城日誌
		6	1		北越新報に蹄塵を口授筆記せしむ。	春城日誌
			3		文芸協会後援者を会し会の発展につき協議す。市島司会を務める。	春城日誌
			5		文部省での標準目録編纂委員会に出席。7、8、9日引続き逐条審議し確定す。	春城日誌
			12		京阪行き。神戸を含め早稲田大学基金募集、坪内の文芸協会大阪興業、出版部事業宣伝活動を行い18日帰京。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
				19	藪田嘉一郎夫婦上京、大隈邸に案内し、又商品陳列館設置地所を示す。21日商品陳列館建築費を藪田と協議、25,000円と決定す。	春城日誌
				24	早稲田大学基金募集、文芸協会肝煎のため京阪行き。27日坪内逍遙来阪、文芸協会興業のため共に周旋す。7月1日帰京。	春城日誌
		7	1		早稲田大学理事会開催、予決算を議決。2日維持員会にて理事会原案を議決す。	春城日誌
				5	早稲田大学卒業式に列す。	春城日誌
				6	早稲田大学校友会大会。校友倶楽部の件に付委員会を開催。	春城日誌
				11	新発田新聞1,000号祝辞を口授筆記せしむ。13日同続きをなす。	春城日誌
				20	早稲田大学出版部の通俗大日本史出版について協議す。	春城日誌
				21	早稲田大学校外生夏期講習会を開催。市島開会の趣旨を講演す。23日夏期講習生を大隈邸にて撮影し、図書館に開催の図書陳列に案内し、列席者に説明をなす。	春城日誌
		8	1		新潟行き。2日長岡での新潟校友会大会に出席。3日校友会主催の講演会、天野為之、市島等講演。4日北越新報主催早稲田大学講演会、市島一場の演説をなす。中越大水害に遭遇。9日帰京。	春城日誌
				17	渡米野球団を新橋に出迎える。	春城日誌
				24	発熱、月末まで病臥。	春城日誌
		9	21		文芸協会研究所を訪れ、内輪の催しを観る。22日私演会、人形の家等観劇。	春城日誌
				26	新潟行き。昂同伴五十公野浄念寺墓域整備をなす。又、ユキ夫人のために土地購入をなす。10月1日帰京。	春城日誌
		10	3		鳩山和夫死去の報に接す。4日臨時校友幹事会開催し鳩山死去につ協議す。6日葬儀列す。	春城日誌
				15	北越新報に鉄窓旧夢録を口授筆記せしむ。	春城日誌
		11	4		早稲田大学維持員会に出席。運動場敷地購入等を議す。又、図書館協会総会に出席す。	春城日誌
				7	早稲田大学理工科学生紛擾につき理事会開催。	春城日誌
				17	東京府下落合に土地を購入す。	春城日誌
		12	13		早稲田大学出版部より慰労金550円、配当金941円請取	春城日誌
				16	新潟新聞の求めに応じ越人論を口授筆記せしむ。	春城日誌
				17	国民雑誌の求めに応じ図書館のごみと題し趣味談を口授筆記せしむ。	春城日誌
				22	早稲田大学職員慰労会に出席し、学長に替わり挨拶をなす。	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
			23		新発田貯蓄銀行の借財につき執達吏来に書画骨董の一部が差押られる。	春城日誌
1912	45	1	1	53	東京市内電車同盟罷業のため早稲田大学新年会に出席せず。坪内逍遙等を午後訪問す。	春城日誌
			18		校賓森村市左衛門の葬儀に列す。	春城日誌
		31			早稲田大学維持委員会に出席。月謝増額案、竹内綱を校賓とする事を議決。	春城日誌
					創立30周年記念式典委員会開催。	春城日誌
		2	22		日清生命保険定時総会に出席。社長前島密辞任、中野武宮後任を承認。	春城日誌
			27		早稲田大学教職員の温交会発起人会開催、規則など議決す。	春城日誌
		3	2		早稲田大学30周年記念録の立稿を山本利喜雄に托す。	春城日誌
			5		文芸協会大阪支部設立のため京阪行き。坪内逍遙、島村抱月と周旋、後援会組織を発足。市島15日帰京。18日中座の公演は好況と坪内からの報に接す。30日坪内帰京、大阪公演の大成功を報す。	春城日誌
			6		国書刊行会第2期刊行結了。	春城日誌
		4	3		藤田伝三郎葬儀のため大阪行き。6日帰京。	春城日誌
			7		亡弟息欣二中学入学不首尾の報に接す。	春城日誌
			14		後楽園に早稲田大学職員温交会開催。来会者400名。	春城日誌
		5	4		早稲田大学において文明源流展、講演会開催。洋学資料を展示、大槻文彦等の講演を催す。5日に来観者多数、接客に忙殺され「十里の道を歩したることし」と記す。	春城日誌
			9		文部省に赴き図書館員養成所設置を建議す。	春城日誌
			17		皇太子早稲田大学行啓。市島準備主査として万端係り成功裡に終え大隈重信邸にて晚餐の饗を受ける。	春城日誌
		6	26		日本図書館協会大会を慶応義塾図書館にて開催、出席す。来会者80名。	春城日誌
			15		博文館25周年記念祝宴に招かれる。帝国劇場にて参加者1,000名。	春城日誌
26	二女ヒサ、医師杉山茂吉に嫁す。媒酌人昆田文次郎、親戚総代吉田東伍にて挙式す。入籍12月17日		春城日誌、戸籍謄本			
7	5	早稲田大学卒業式。理工科初めての卒業生を含む。	春城日誌			
	16	坪内逍遙と共に名古屋市の招待に招かれる。	春城日誌			
	19	早稲田大学基金募集のため新潟行き。30日帰京。	春城日誌			
	30	大原孫三郎より寺尾元彦留学費用承諾の報を受ける。明治天皇崩御。31日大正と改元。	春城日誌			
大正 1		8	14	二男昂、三女スミ、四女ミツを伴い新潟に	春城日誌	

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠	
		9	13		行く。水原の旧居等を見る。五十公野菩提寺浄念寺にて長男機、三男芳雄の法要を営む等して、22日帰京。 大葬。早稲田大学学生、宮城前にて奉送す。市島感冒のため不参加。家族と謹慎、その時刻礼拝す。	春城日誌	
			18		宗家市島徳次郎来訪。両三年の久闊を叙し水原旧址の記念碑建立を決める。継志園碑として現阿賀野市天朝山に現存。	春城日誌	
			24		在川越監獄亡弟遺児慶一に書を発す。10月16日出獄、丹呉勝吉に対応を依頼す。	春城日誌	
			25		早稲田大学理事会に出席、予算を議し基金経済案を協議す。午後維持委員会同議案を決議す。	春城日誌	
			26		東儀鉄笛を招き、文芸協会の前途を話し、二男昂の音楽研究の指導を托す。	春城日誌	
		10	11		坪内逍遙宅の文芸協会幹部会に出席。会の運営について協議す。	春城日誌	
			26		西村真次来訪、学生新年号へ市島の日誌に関する所感の寄稿を依頼される。11月12日取材に応じ、高山彦九郎、柳亭種彦等の資料を提供す。	春城日誌	
			29		斎藤精輔と三省堂の再興について協議す。	春城日誌	
		11	2		日本図書館協会大会を帝国図書館で開催、出席。	春城日誌	
			5		三省堂再興について大隈重信、朝吹英次等と協議。百科事典事業を切離しこれを完成する目的で債権者の援助を求める事とする議決を得る。	春城日誌	
			19		重栖健（長女シズ夫）台湾より上京、市島始めて会う。	春城日誌	
		12	4		早稲田大学理事会、維持委員会に出席。基金管理委員会提出の議案を協議す。	春城日誌	
					同日、出版部社員会を開催し、本年の収支の報告を受け次年度計画を協議す。	春城日誌	
			6		早稲田大学維持委員会に出席。午後図書館商議員会を開催、規則改正、図書費増額等を協議す。	春城日誌	
			10		日蘭協会発足会に参加。	春城日誌	
			12		早稲田大学出版部幹部会開催、吉田東伍倒叙国史、大隈重信開国大勢史刊行を協議す。	春城日誌	
			21		日清印刷の総会に出席。特に会社に開催し、工場等見学をなす。	春城日誌	
			29		大隈重信開国大勢史出版を出版部と実業之日本社との共同出版とすることに決す。	春城日誌	
1913		2	5	29	54	落合別邸落成。7月3日宗家市島徳次郎を招く。	春城日誌
			9	10		大隈重信新潟北陸旅行に随行。13日新発田着、天王の宗家に宿泊。富山、金沢、福	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		10	17		井に遊説し23日帰京。 早稲田大学創立30周年祝典開催、早稲田大学教旨を大隈重信が宣言、高田早苗と物故功労者展墓などして22日閉会。	百年史
			21		早稲田大学図書館より表彰される。	春城日誌
			22		早稲田大学より慰労金1,000円贈呈される。	春城日誌、愧存経歴
			31		大隈重信西下に随行。関西、四国、佐賀等を訪問し11月29日帰京。	百年史、春城日誌
		11	23		星野恒帝大教授（水原時代の恩師）25年祝賀会に出席。豊城存稿を編纂出版し贈呈。	春城日誌
1914	3	3	8	55	早稲田大学越佐会30年記念大会に出席。	越佐会略歴
			12		早稲田大学維持委員会にて4月から高田学長欧米歴訪につき天野為之理事を代理とし、市島を庶務、基金関係の責任者とすることを決議。	百年史、春城日誌
		4	19		親しく交際していた英堂と別れる。	春城日誌
			10		大隈重信に組閣命令の報に接す。13日組閣命令、16日第2次大隈内閣成立。	春城日誌、近代史年表
			12		高田早苗欧米歴訪に出発。11月6日帰国。	春城日誌、百年史
			28		古河鋳業昆田文次郎来訪、早稲田大学と共同の銀行経営の件について談あり。	春城日誌
		5	28		三女スミ（日本女子大在学）死去。享年19歳。	春城日誌
		10	7		二女ヒサ夫杉山茂吉死去。12月ヒサ離縁す。	春城日誌
			18		早稲田大学高等予科長田原栄死去。23日葬儀、市島友人代表として弔辞を述べる。	春城日誌
		11	6		帰国の高田早苗を横浜に出迎える。	春城日誌
1915	4	1	18	56	3月の第12回総選挙にむけ設立された大隈伯講演会会長に選出される。	春城日誌
		4	27		田原栄追悼会、追悼晩餐会に出席。市島、故人の記念録編纂を提案。	春城日誌
		5	19		高田早苗貴族院議員に勅撰される。	高田年譜
		8	10		第2次大隈内閣改造。高田早苗文相に就任。	高田年譜
			14		早稲田大学維持委員会に出席。高田の後任に天野為之を学長に選任。	春城日誌、百年史
			16		早稲田大学より感謝状と終身年金贈呈を受ける。	愧存経歴
		9	15		早稲田大学理事会に出席。御大典記念事業を決議す。募金総額30万円、恩賜館内研究室増設、各学科研究室の新設、図書館閲覧室の改築、書庫の増設等。市島募金委員長。	春城日誌、百年史
			22		御大典記念事業委員長に就任。	春城日誌
1916	5	4	29	57	早稲田大学越佐会春季大会に出席。卒業生予餞会、新入生歓迎会を兼ねる。70名余参加。	越佐会略歴
		5	23		御大典記念事業建築設計委員長に就任。	百年史
		6	24		二男昂柝屋六四郎より三弦免許を受け、芸名四郎次を授けられる。	春城日誌
		8	6		那須塩原に四女ミツと避暑に赴き、後新潟	春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		9	26		行き。五十公野浄念寺にて曾祖母33回忌、長男機3回忌法要を営む。	春城日誌
		10	9		北越新報に雅俗相半録を掲載を始める。昭和1年に『春城随筆』として刊行。	近代史年表
		11	13		大隈内閣総辞職。高田文相依頼免官。新潟新報に鯨胆録を連載。昭和11年に『鯨胆録』として刊行。	春城日誌
1917	6	4	12	58	牛込区東五軒町に住宅土地購入を決す。	春城日誌
		5	5		早稲田大学越佐会春季大会兼卒業生予餞会、新入生歓迎会に出席。60余名参加。	越佐会略歴
			28		東五軒町に引越す。	春城日誌
			29		大阪行き。大日本文明協会講演会に臨み、	春城日誌
		6	16		来阪中の大隈重信と会し、6月5日帰京。美術倶楽部にて所蔵書画骨董を売立。売上10,373円余。住宅購入の費用に加える。	春城日誌
			19		「早稲田騒動」勃発。「学長更迭問題に付、今朝二、三の新聞紙に云々の記事出て、急に高田宅に吾等元老会議を開く」と記す。	春城日誌
		8	25		早稲田大学維持員会に出席。図書館長辞任。	春城日誌
		9	26		早稲田大学維持員を辞任。	百年史
		11	22		牛込公民館評議員に推挙される。	春城日誌
1918	7	1	15	59	『田原栄君紀念録』刊行。追懷録1編を載せる。	同書
			22		吉田東伍死去。享年55歳。	吉田東伍年譜
		2			自筆の「館長日誌」（明治36～38年）を図書館に寄贈。	図書館史
		3	16		故小野梓、田原栄、吉田東伍三氏追悼展覽会を開催。	同展目録
		4	20		早稲田大学越佐会創立35周年祝賀。市島会長母校引退の慰安会を兼ねる。参加者100名を越える。市島謝辞を兼ね大学の歴史について講演す。また、会長辞任を申出すが慰留される。	越佐会略歴
		12	21		日清印刷取締役社長に就任。	日清印刷沿革
1919	8	1		60	早稲田大学出版部（部長高田早苗）取締役主幹となる。	出版部100年
		2	7		還暦の祝賀を受ける。	春城日誌
		3	15		御大典記念事業委員長功労感謝状を受け1,000円を贈呈される。	愧存経歴
		11	6		母シゲ死去。享年76歳。	春城日誌
		12	22		高田早苗、坪内逍遙、増田義一、昆田文次郎等招待の慰労会に出席。	春城日誌
1920	9	2	5	61	大学令による早稲田大学が文相より認可される。	百年史
		3	13		早稲田大学終身維持員に推薦される。	愧存経歴
		5	22		日本図書館協会大会が大連で開催。出席し満州各地を旅行す。	図書館史
1921	10	2	11	62	早稲田大学図書館建築委員となる。	図書館史

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		3	14		二女ヒサ吹省三に嫁す。	戸籍謄本
		11	18		早稲田大学越佐会秋季大会に出席。市島早稲田大学と越佐会の不可離なるを説く。	越佐会略歴
		12	1		初めての随筆集『蟹の泡（奇談一五〇話）』を早稲田大学出版部より刊行。	同書
1922	11	1	10	63	大隈重信死去。享年85歳。17日日比谷公園にて国民葬が執り行われる。病床の高田早苗総長に替わり市島が総務として葬儀を取仕切る。	百年史
			27		大隈侯爵記念大講堂建設委員会に市島委員として加わる。	百年史
		2	20		早稲田大学維持員会で大隈の遺志により大隈邸と敷地の寄付を受けることとし、委員会を設置す。市島委員に囑任される。	百年史
			28		『大隈侯一言一行』を早稲田大学出版部より刊行。	同書
		4	11		『芸苑一夕話』（2巻）を刊行。	同書
		8	23		落合別荘を会津八一に提供す。	落合雑記
1923	12	5		64	早稲田大学出版部部長高田早苗が相談役に就任。市島主幹として社務を総理す。	出版部100年、百年史
			19		日本図書館協会より会長としての功績により感謝状を受け、名誉会員に推薦される。	槐存経歴
		9	1		関東大震災。市島は高田早苗、坪内逍遙と大隈会館で大学行事の打合せ中にこれに遭遇。	百年史
			12		双鱼の寿印を贈られる。早稲田大学図書館顧問となり新図書館建設の評議に参加す。	春城日誌 図書館史
1924	13	2	2	65	早稲田大学越佐会に出席。高井忠夫欧米留学帰朝歓迎会を兼ねる。30名参加。	越佐会略歴
		12	6		大隈侯爵記念事業基金として1,000円寄付し、感謝状を受ける。	槐存経歴
1925	14		13	66	早稲田大学越佐会継続協議会にて越佐倶楽部閉鎖を議す。	越佐会略歴
		3	10		『随筆頼山陽』初版を翰墨同好会より刊行。6月10日訂正増補版を刊行。昭和11年6月19日改定決定版を刊行。	同書
			12		早稲田学報に早稲田大学図書館に位置特色を持たせたい冀望、演劇博物館を開くの議を寄稿。	同書
					この年、宗家市島徳厚、本郷区林町別邸内に市島塾を設立。初代塾長諸橋轍次。市島は顧問として経営に参加。	市島徳厚伝
1926	15	11	24	67	大隈会館において演劇博物館期成相談会に出席。	百年史
	昭和 1	12	11		早稲田大学越佐会復興第1回大会に出席。清水泰次帰朝歓迎会を兼ねる。94名参加。	越佐会略歴
			20		『春城随筆』早稲田大学出版部より刊行。	同書
1927	2	1	1	68	『漫談明治初年』を春陽堂より刊行。	同書

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		5	25		高田早苗と同伴昆田次郎埋骨のため新潟行き。26日新発田での校友大会に出席。27日帰京。	高田年譜
		7			演劇博物館建設実行委員会の委員長となる。	演劇博物館五十年同書
		8	3		『随筆春城六種』を早稲田大学出版部より刊行。	高田年譜
			6		愛知県半田校友会出席のため高田早苗等と赴く。	同書
		10	3		『半峰昔ばなし（高田早苗自伝）』刊行される。市島跋文等寄稿す。	同書、春城日誌
			15		大隈会館にて蔵書を売立。16日まで2日間。「春城市島先生所蔵古書籍展覧売立目録」に掲載。	春城日誌、図書館史
			20		田中光顕より維新志士遺墨目録届く。後に早稲田大学図書館に寄贈される。	百年史
			20		早稲田大学創立45周年記念式典、大隈講堂開館記念式開催。	春城日誌
		11	29		二女ヒサ（矢吹省三妻）死去。享年35歳。	越佐会略歴
1928	3	2	9	69	早稲田大学越佐会45周年記念大会において市島会長の多年の功績に対し記念品贈呈さる。	愧存経歴
		5	9		日本図書館協会顧問に推挙される。	愧存経歴
		6	26		御大典記念徳川時代各派名作浮世絵展覧会を開催、感謝状を受ける。	同書
		8	13		『春城筆録』を早稲田大学出版部より刊行。	演劇博物館五十年、百年史
		10	27		早稲田大学演劇博物館開館式挙行。市島は実行委員長として経緯報告す。河竹繁俊（後に演劇博物館館長）は「簡単な開会の辞があって、和服の老人が立った。先刻渡されたプログラムによって見ると「報告、市島謙吉君」とある。ハハアこれが漫筆家の春城外史かなと知る」と記す。後年の市島を語るものである。	
1929	4	1	27	70	前年開館の演劇博物館運営支援のため演劇博物館後援会（市島会長）発足。	越佐会略歴
		2	12		早稲田大学越佐会春季大会に出席。斎藤庫四郎、馬場正利帰朝歓迎会を兼ねる。45名参加。	春城日誌
			17		古希記念祝宴を芝紅葉館にて開催。広井一、松木弘、河竹繁俊等に招待される。この席で以降この日に市島を招飲する春城会を開催することを議決す。	竹頭木屑録
		3			報知新聞越後版に名士の少年時代として自伝を連載す。	同書
		10	13		『半峰春城逍遙三翁熱海漫談』が富士書房より刊行される。	百年史、春城日誌
			20		早稲田大学校友会主催で高田早苗、坪内逍遙、浮田和民と共に古希記念祝賀会に招かれる。	同書
		12	13		『春城漫筆』を早稲田大学出版部より刊行。	

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
1930	5	2	5 25	71	早稲田大学越佐会春季大会に出席。 2月17日市島誕生日に春城会開催の予定の ところ、20日の総選挙のためにこの日開 催となる。神楽坂陶々亭にて、15名参加。 近刊随筆を出席者に頒つ。	越佐会略歴 春城日誌
1931	6	2	17	72	銀座松本樓にて春城会開催。寿像を贈られ る。又四女ミツ同伴、出席者へ菓子を頒 す。来会者20余名。 早稲田大学維持員を辞す。高田早苗、坪内 逍遙と行動を共にす。 『春城漫談』を自費出版す。北越新報に昭 和5年から6年に連載された材料をもと にす。 早稲田大学越佐会秋季大会に出席。	春城日誌 百年史 同書 越佐会略歴
1932	7	3	17	73	2月予定の春城会は、総選挙のため延期し、 この日浅草松葉屋で開催。18名出席。 東京中央放送局より故大隈侯国民敬慕会主 催追悼会の市島の講演を全国放送す。又、 子供向けの「幼児の大隈老侯」を放送す。 大隈重信夫人綾子より、大隈家所持の文書、 書簡を焼却する意向を聞き、これを押留 め、市島が整理をすと申出る。昭和24 年6月にこれらは早稲田大学に寄贈され 大隈文書として架蔵される。	春城日誌 百年史 自娛毫録
1933	8	3	17	74	ユキ夫人の病気のため春城会を延期しこの 日開催。木挽町常磐に20名余参加。 『小精廬雑筆』をブクドム社より刊行。 『春城代酔録』を中央公論社より刊行。	春城日誌 同書 同書
1934	9	2	17	75	春城会にて75歳の誕生日を祝われる。来会 者19名。吉田東洋より画を贈られる。	春城日誌
1935	10	2	17	76	日清印刷社長を辞任。 熱海聚楽に春城会開催。12名出席。席上成 島柳北の記念碑建設を提案。 坪内逍遙死去。享年75歳。 『文墨余談』を翰墨同好会、南友書院より 刊行。 『随筆早稲田』を翰墨同好会、南友書院よ り刊行。 『文人墨客を語る』を翰墨同好会、南友書 院より刊行。	大日本印刷社史 春城日誌 百年史 同書 同書 同書
1936	11	1	8	77	熱海聚楽に建立の成島柳北の碑を検分す。 『春城閑話』を健文堂より刊行。 『擁炉漫筆』を書物展望社より刊行。 芝紅葉館にて春城会開催。随筆『擁炉漫筆』 を頒つ。20名出席。 春城会員と熱海聚楽に行く。10名と成島柳 北親族大島隆一出席。 春城会より長寿祝いとして銀製烟草箱を贈 られる。	春城日誌 同書 同書 春城日誌 春城日誌 春城日誌

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
		12	25		『鯨肝録』を東苑書院より刊行。	同書
1937	12	2	17	78	神田治作にて春城会開催。18名参加。『春城閑話』を頒つ。	春城日誌
1938	13	6	10	79	大日本文明協会創立30周年記念式典、大隈重信生誕100周年記念式典に招待される。	百年史
		2	17		築地銀水にて春城会。出席者20名。参加者に洋菓を頒つ。	春城日誌
		4	14		ユキ夫人骨折す。	春城日誌
		7	8		亡弟女婿下林貞雄死亡。	春城日誌
		11	17		大日本文明協会理事長を辞任す。	春城日誌
		12	3		早稲田大学越佐会会長を辞任す。後任に増田義一（実業之日本社社長）就任。	越佐会記録
		12	3		高田早苗死去。享年79歳。	高田年譜
1939	14	5	13	80	2月に神経痛を病む。春城会をこの日に予定するが4月に脳溢血で倒れ静養。4月15日から8月3日まで日誌欠。	春城日誌
		8	13		長女シズ両親の看病のため台湾より来る。	春城日誌
		11	7		春城翁蔵芸術小品風俗資料展を早稲田大学演劇博物館にて開催。30日閉会。	演劇博物館五十年
			8		『余生見戯』を富山房より刊行。日誌に最期の随筆と記す。	春城日誌
		12	10		長女シズ死去。享年52歳。	春城日誌
1940	15	9		81	早稲田騒動を記録した校紛録、外平内動録を早稲田大学に寄贈す。	春城日誌
		12	19		27	二男昂、角谷静江と結婚す。 ユキ夫人死去。享年75歳。妻との想出を綴る。
1941	16	3	25	82	『回顧録』を中央公論社より刊行。	同書
1942	17	5	2	83	東京美術倶楽部で所蔵骨董、書籍を売立る。	同日録
		8	10		『春城談叢』を千歳書房より刊行。	同書
1944	19	4	21	85	85歳で死去。24日葬儀。	『読売新聞』死亡記事
		27	5		23	二男昂より市島の遺志として早稲田大学に1,000円寄付。総長田中穂積より感謝状。
1959	34	3	17		二男昂死去。	戸籍謄本
		10			早稲田大学創立70周年記念行事に物故功勞者として展墓。	百年史
1960	35	5	8		市島春城先生生誕百年記念祭が早稲田大学図書館主催で開催。記念展覧会、『春城八十年の覚書』が記念出版として刊行される。	百年史、同展目録
1963	38				新潟県立図書館に寄託の春城資料一括早稲田大学に移管される。	図書館史
1979	54	5	17		四女ミツ死去。	戸籍謄本
1984	57	9	10		早稲田大学創立100周年記念行事に功勞者展墓。	百年史
1986	59	6			早稲田大学図書館有志による春城日誌研究会発足。日誌翻刻と解題が早稲田大学図	図書館紀要

西暦	年号	月	日	年齢	記 事	典 拠
					書館紀要に連載される。	
1993	平成 5	6	10		新潟県安田町にて吉田東伍とその周辺展開催。春城日誌出陳される。	同展目録
1996	8	5			『市島春城随筆集』全11巻（クレス出版）刊行。	同書
2002	14	11	8		早稲田大学図書館において没後50年記念展覧会開催。18日閉会。	同展目録
2004	16	6	18		春城日誌研究会編集の『市島清松小伝』刊行。	同書
		10	25		『春城蔵印』（富岡美術館編）が青裳堂より刊行される。	同書
2006	18	4	30		『知の自由人春城師友録』（山口昌男編）刊行。	同書
		5	12		新潟県阿賀野市において市島生家屋敷一部が市所有を記念し展覧会、記念講演会開催。	同展目録
		10	5		市島の顕彰を目的とした春城会が新潟県阿賀野市等有志荷より発足。	春城会会報
2008	20	5	12		旧富岡美術館所蔵市島春城印章コレクション展覧会開催。6月7日閉会。	同展目録
		9	8		早稲田大学創立125周年記念行事に功労者展墓。	早稲田学報
2010	22	3	5		市島生誕150年記念行事（市島銅像建立、記念展覧会、早稲田大学図書館紀要で市島特集号刊行）が早稲田大学および早稲田大学図書館で行なわれた。	